

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				人間探求科目
講義名	[00016] 歴史学				
期 間	後期（15回）		単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
歴史学とはどういう学問なのかについて講義する。調べ学修や巡見を通じて歴史を体感してもらう。歴史学は、過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実、及びそれらの関連を追究する学問であるので、歴史学を学ぶ意義を本授業で学修してもらいたい。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
歴史学とはどういう学問が修得し、調べ学修を行った日本史の時代や出来事等について理解できるようにする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式を基本とするが、身延山という地域を歩く授業も取り入れることにする。日本史に関する調べ学修を行うので図書館に行って文献検索を行う時もある。アクティブラーニングを行うので、電子機器（ipad）を毎回持参すること。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修120分：授業内容について予め調べ学習を行い、わからない語句等は辞書で調べておくこと。 事後学修120分：授業でやった内容について復習し、わからない箇所は辞書等で調べておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（50%）、授業に取り組む姿勢（50%）					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	歴史学とはどういう学問か				
第2回	史実と伝承				
第3回	日本史の時代区分				
第4回	史（資）料とは				
第5回	旧暦と新暦				
第6回	日本の元号（1）				
第7回	日本の元号（2）				
第8回	日本歴史に関する調べ学修（1）				
第9回	日本歴史に関する調べ学修（2）				
第10回	日本歴史に関する調べ学修（3）				
第11回	日本歴史に関する調べ学修（4）				
第12回	調べ学修についての発表				
第13回	歴史散策1				
第14回	歴史散策2				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：特になし。参考書：小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書、2004年。					
【学生へのメッセージ】					
歴史について調べ学修を行うので、毎回ipadやノートパソコン等の電子機器を持参すること。					
【オフィスアワー】					
授業開始前、終了後に質問等を研究室、教室で受け付けます。					
【実務経験】					
高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験がある。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00034] 山梨県と峡南地域				
期間	通年（15回）		単位数	選択（2）	
種類	集中				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho
	林 是恭		ハヤシ ゼキョウ		hayashi zekyo
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
山梨県峡南地域の歴史と文化について学ぶために3回の巡見を行う。予め巡見場所に関する調べ学習を行い、予備知識を得た上で巡見を行う。自ら歩いて見学することにより、峡南地域の歴史と文化を体感する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
峡南地域が山梨県の中でどういう地域か、理解することを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
峡南地域の中でも、身延町、南部町、富士川町にスポットをあて、3回に分けて神社仏閣、史跡、文化・歴史施設等を巡見する。各回の巡見後にレポートを提出してもらう。また、「やまなし観光カレッジ」事業と連携しているので授業中に山梨県内のイベントに参加し、レポートを提出してもらう。毎回、1限は大学図書館で調べ学習を行い、それから巡見を行う。授業は集中講義で、6月6日、7月11日、10月24日の3回を予定している。諸般の事情によりこの日に授業ができない場合の予備日として11月21日、11月28日を設定する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
3回それぞれの巡見のための各回ごとに事前学修10時間、事後学修10時間を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
巡見した際の授業態度（10%）、授業に取り組む姿勢（50%）、レポート点（40%）にて評価する。 「やまなし観光カレッジ」事業のレポート提出も評価の対象とする。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	授業の概要説明、1回目巡見場所の調べ学習				
第2回	巡見1回目				
第3回	巡見1回目				
第4回	巡見1回目				
第5回	巡見1回目				
第6回	2回目巡見場所の調べ学習				
第7回	巡見2回目				
第8回	巡見2回目				
第9回	巡見2回目				
第10回	巡見2回目				
第11回	3回目巡見場所の調べ学習				
第12回	巡見3回目				
第13回	巡見3回目				
第14回	巡見3回目				
第15回	巡見3回目				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 3回の巡見には必ず出席すること。巡見場所、巡見日は、天候や訪問先の事情により変更することもある。巡見は基本的に学校のバスを利用するので交通費はかかりません。拝観料他が必要となる場合は予め受講者に連絡する。昼食は各自持参。バスで巡見するので受講人数に制限があります。開講日土曜日1限～5限となります。3回の開講日に注意してください。					
【オフィスアワー】					
授業内容等に関する質問があれば、3回の授業前後の時間に担当教員が対応する。毎回、1時間目に調べ学習を行うが、具体的な巡見場所を知りたい受講生は事前に担当教員に聞いてください。メール可 smochi(a)min.ac.jp					
【実務経験】					
望月真澄：峡南地域の博物館学芸員として勤務経験あり。 林是恭：身延山宝物館の学芸員として勤務。					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00035] 留学成果による単位認定				
期 間	通年（1回）	単 位 数	選択（30）以下		種 類 認定
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年	
担 当 者	学長				
	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
交換留学生の単位を認定します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
【授業外学修の方法（時間数）】					
【成績評価（方法・基準）】					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回					
【教科書・参考書】					
【学生へのメッセージ】					
【オフィスアワー】					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目		
講義名	[00037] サービスラーニング						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選 択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。 キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を感じ取ってもらうことを目的とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法として実践できる力を成果とする							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域の課題を明確にする。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化して行う。							
【成績評価（方法・基準）】							
事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	オリエンテーション：サービスラーニングとは？						
第2回	活動計画の構成と計画書の作成						
第3回	活動前の事前準備（事業者との面談と打ち合わせ）						
第4回	地域活動						
第5回	地域活動						
第6回	地域活動						
第7回	地域活動						
第8回	地域活動						
第9回	地域活動						
第10回	地域活動						
第11回	地域活動						
第12回	活動報告書の作成と地域課題の掘り起こし						
第13回	地域課題に対する解決案の作成と修正						
第14回	解決案の事業者への提案						
第15回	事後報告会と全体の振り返り						
【教科書・参考書】							
「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。							
【学生へのメッセージ】							
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 ボランティアとは、「助ける」と「助けられる」ことが融合した、魅力にあふれた活動である。ボランティア活動に、参加することは自分の成長にとっても得るものが多い。積極的に活動することを期待する。単位の換算上、5日以上参加しなければ単位を認定できません。							
【オフィスアワー】							
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。							
【実務経験】							
元身延町教育委員							

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目	総合科目

講義名	[00039] サービスラーニング
-----	-------------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	--------	-----	----

対象学年	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。サービスラーニングとの継続でも可であるが、なるべくならば他社、他所での異なる体験を積むことを良とする。
キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を自覚できることを目標とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法を実践できる力を成果とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

峡南圏域で行われている地域活動を30時間以上行い、地域課題への解決を図る活動を行っていく。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。

【授業外学修の方法（時間数）】

地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学習を実施し、活動目的や活動内容等の計画書を作成する。実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学習を実施し、活動報告を文章化・言語化する。

【成績評価（方法・基準）】

事前学習での活動計画書の内容（10%）計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	サービスラーニング の成果を踏まえた活動計画立案
第2回	活動計画書の具体的な作成
第3回	地域活動
第4回	地域活動
第5回	地域活動
第6回	地域活動
第7回	地域活動
第8回	地域活動
第9回	地域活動
第10回	地域活動
第11回	地域活動
第12回	地域活動
第13回	事後の振り返り、報告書作成
第14回	事後報告会
第15回	事後報告会と全体の振り返り

【教科書・参考書】

「ボランティア論」川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。

【学生へのメッセージ】

大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目
受け身ではなく、自らが体験してそれを振り返り、文章や言葉として他者に伝えていくことをとおして学びを深めて欲しい。「我がまち」という意識を持ち、活動をおして地域の課題を明確にする意識を持って欲しい。

【オフィスアワー】

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

【実務経験】

宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 教養科目				総合科目
講義名	[00045] 身延町の福祉文化				
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）		種 類
対象学年	--	2 年	3 年	4 年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
2020年度は講義と演習、そして学外において聞き取り調査を行い、地域文化と福祉の関わり、地域課題と福祉のあり方などにへの理解を深め、地域課題を解決するための基礎スキルの習得をおこなう。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
われわれが暮らしている「地域」ある福祉の多様性を理解し、豊かな「暮らし」を障がいのあるなしに関わらずすべての人々が享受できる社会形成に向けて、現在の「地域」にある福祉文化を概観し、その実像を把握できるようになることを目的の第一とする。インターネット上から得られる情報をプロジェクターを用いてプレゼンテーションができるようになることや、実際の現場から得られた情報を、先の情報と照らし合わせて適切に加工し、他者に伝えられようようになることが目的の第二である。そして、それらの情報から導かれる課題を解決する具体案を作成できるようになることが目的の第三である。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
大学図書館、地域図書館などの資料を活用して、地域の歴史の中にある福祉文化を探索する。大学を離れて地域に出かけて実際の現場を見て、感じて、その意味を知り、地域の課題解決に向けた具体的な提言案を作成する。講義形式と自己学習型の演習形式、そして実験的な観察形式によるPBL型の授業となる。特に11回～15回の授業では、外部に赴き、「超高齢化社会のまちづくり」を基本コンセプトとしてPBL型の授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
講義形式：事前に指定された事項の理解に120分、事後には全体の復習と与えられた課題をまとめることに120分程度が必要となる。 演習形式：得られた情報加工をするために、事前に120分、事後には120分程度は必要となる。実践形式：実際の現場に出て情報を収集することに120分、得られた情報を整理加工することに120分までが事前学修、事後はプレゼンテーションの不具合の訂正や修正に150分程度は必要となる。					
【成績評価（方法・基準）】					
講義形式30%（プレゼンテーション20%、講義中の取り組みに10%）、演習形式ではプレゼンテーション発表に20%とその取り組みに10%、実践形式では、講義形式と演習形式の基礎を踏まえているかどうかにかんして20%、最終のプレゼンテーションに20%、その取り組みに10%となる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション、福祉と文化の関係とその範囲				
第2回	身延町を理解しよう				
第3回	身延町の福祉実践と民間の活動				
第4回	資料からみることができる身延町の福祉（1）				
第5回	資料からみることができる身延町の福祉（2）				
第6回	プレゼンテーション（1）				
第7回	地域図書案の活用（地域情報の入手と加工）				
第8回	地域図書館の活用（情報加工技術）（1）				
第9回	地域図書館の活用（情報加工技術）（2）				
第10回	プレゼンテーション（2）				
第11回	福祉に関する地域課題の検出（PBL型）アンケート項目の設定				
第12回	地域課題解決に向けての方策検討（PBL型）アンケート内容の検証				
第13回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第14回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）				
第15回	身延町の福祉文化の多様性理解と問題解決策のプレゼンテーション（3）				
【教科書・参考書】					
教科書は特になし。授業において適宜に紹介する。参考書も授業において紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 「福祉文化」という聞き慣れない言葉であるが、欠席することなく履修していただきたい。履修した学生で質問をお持ちの方は、ikegami(a)min.ac.jpまで、メールにて質問するようにしてください。					

【オフィスアワー】

池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。

高橋賢充：火曜日8:50～10:20 水曜日10:25～11:55

【実務経験】

池上要靖：保護司、宗教法人智寂坊代表役員、元教育委員

高橋賢充：社会福祉士資格・精神保健福祉士資格・北海道社会福祉協議会・札幌市麻生総合センター館長・厚真町地域包括支援センター社会福祉士

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[00509] デス・エデュケーション					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類 講 義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年		
担当者	村瀬 正光		ムラセ マサミツ		murase masamitsu	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
現代における生老病死の諸問題を解説し、様々な視点から「いのち」について考える力を養うことを目的とする。生殖医療・再生医療、終末期医療など生老病死の諸問題に関して概要を解説し、具体的な事例と一緒に議論する。医療現場における宗教・宗教家の意義を、実際の活動などを通して解説する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標）】						
生老病死の諸問題を、自分の言葉で説明できるようになること。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。						
【成績評価（方法・基準）】						
講義毎のレポート100%						
【授業計画（各回の授業内容）】						
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、自己紹介など）					
第2回	宗教とは（岸本英夫著『宗教学』を中心に）					
第3回	倫理学（自由主義の原則）					
第4回	生殖医療の現状 1					
第5回	生殖医療の現状 2					
第6回	終末期医療の現状 1					
第7回	終末期医療の現状 2					
第8回	臨死体験のワーク					
第9回	日蓮聖人の終末期					
第10回	精神疾患について（自死、自殺）					
第11回	グリーンワーク					
第12回	傾聴					
第13回	終活、事前指示					
第14回	医療現場における宗教者					
第15回	ビハラーについて（長岡西病院ビハラー病棟）					
【教科書・参考書】						
授業中に適宜、資料を配付する。参考図書：『宗教学』岸本英夫著・原書房、『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著・講談社現代新書、『死ぬ瞬間』キューブラー・ロス著・中公文庫、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン著・NHK出版、『定本 ホスピス・緩和ケア』柏木哲夫著・青海社、『病院で死ぬということ』山崎章郎著・文春文庫						
【学生へのメッセージ】						
積極的に授業に参加することを望む。						
【オフィスアワー】						
授業の前後に教室にて対応します。						
【実務経験】						
腎臓内科医						

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[00510] 総合仏教				
期 間	通年（1回）	単 位 数	必修（2）		種 類 講義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年	
担当者	学務委員長				
	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「建学の精神」を具体的に理解し、体感するために設けられた授業である。そのために、毎年度行われる公開の学園講座を聴講し、その意味するところをレポートし、資質向上に供するのである。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
この授業では、身延山大学の建学の精神を学修し、その理解と受容を促すことを目的としている。そのため、学生諸君には、下記に示す法要参列や、学園講座を聴講して、その内容を把握していただき、身延山大学生として資質向上と、社会貢献できる人材となることを目的とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
単年度に行われる三大会と法難会への参列、学園講座と公開講演会の聴講を出席し、レポートを作成、提出することが課せられる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
三大会などは、その意義を事前によく学習すること（120分以上）。学園講座や公開講演会は事後の振り返り学習に120分以上、その後のレポート作成に120分以上が必要である。					
【成績評価（方法・基準）】					
単年度に行われる計5回の学園講座と公開講演会、本山法要への出席を、4年間で12回以上の聴講を義務とする。その都度、レポートを提出する。その評価がレポート1回につき10%、12回提出のレポート点数の合計を12で除した数値、いわゆる平均点（80%）に理解度の深化点（20%）を加えて評価する。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	上記の評価の方法及び基準に従うこと。				
【教科書・参考書】					
特にない。					
【学生へのメッセージ】					
生きた授業である。演者は必ずしも教員ではないので、細分もらさずに聴講すること。 年度末に、その年度に何度（何回）出席したか各自で確認すること。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。					
【実務経験】					
宗教法人智寂坊代表役員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05171] 法律学概論				
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	堀 保彦		ホリ ヤスヒコ		hori yasuhiko
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
現代国家はすべての決定や判断を法に基づいて行い、法治主義を採用し、法は私たちのあらゆる生活部門に関係しています。私たちの身近な法である憲法・民法（契約の自由とその制限・過失責任とその修正）・商法・会社法・労働法・刑法（犯罪と刑罰）等を概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会人として必要とされる身近な法律を体系的に習得することで、現代法治国家の問題点について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるようになることを、本授業の目標とします。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書及び毎回配布するレジュメ（論点メモ）を中心に講義を行い、各回の講義ポイントに関連する課題について自由にディスカッションしコメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。最終回に現代社会における法の問題点（法分野は問わない）について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前の学修は、シラバスに記載した次回の講義範囲について教科書を通読し、講義時に指示した判例・新聞記事・Webニュースについての調査を毎回2時間以上行うこと。事後の学修は、配布したレジュメに基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内テスト（80%）、毎回のコメントシート（20%）で評価します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	法とは何か				
第2回	法の発展と社会の発展（近代法から現代法へ）				
第3回	わが国の法体系				
第4回	法と裁判				
第5回	裁判の基準（法源）と法の解釈				
第6回	近代国家と憲法				
第7回	犯罪と刑罰				
第8回	家族1（親族）				
第9回	家族2（相続）				
第10回	契約の自由とその制限				
第11回	財産権・営業の自由の保障とその修正				
第12回	損害賠償と過失責任、過失責任主義の修正				
第13回	労働者の基本的人権、働き方改革				
第14回	ビジネスに関する法律（商法・会社法）				
第15回	プレゼンテーション（現代法の問題点）				
【教科書・参考書】					
教科書：『現代法学入門（第4版）』伊藤 正己・加藤一郎（有斐閣）2005年。参考書：『日本人の法意識』川島 武宜（岩波新書）1967年、『法律学入門（第3版補訂版）』佐藤幸治（有斐閣）2008年、『法学入門（第6版補訂版）』末川博（有斐閣）2014年。					
【学生へのメッセージ】					
現代法治国家が抱えるさまざまな問題点を受講生一人一人が自らの問題として考え、自分自身の意見を形成することを望みます。授業では、各回の課題について自由にディスカッションし、自らの考えをコメントシートにまとめることで自分自身の意見を形成することを望みます。					
【オフィスアワー】					
毎回授業の前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
株式会社中部銀行24年。銀行における法務担当の経験から日常生活とビジネスに関する法について具体的事例をあげて授業をします。					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05172] 社会学概論【平成30年度生まで】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
社会学とはどのような学問なのか、情報化、消費化社会の展開とその矛盾、その未来について学びます。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
社会学とは、社会関係・社会行為とその生成・変動を人間の社会的行為やそれを規制する文化と関連付けながら理論的・経験的に研究する学問である。社会学というものの考え方を押さえた上で、基本的概念、現実的諸問題についてふれていきたい。社会学のものの考え方、基本的概念、現代が直面する課題を理解することを目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
講義を中心とする。受講者数によっては、学生諸君にも発表をお願いする。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修120分、資料や指示されたテキストをあらかじめ読んでおくこと。 事後学修120分、ノートを整理しながら資料やテキストを読み直し、要点をまとめること。				
【成績評価（方法・基準）】				
レポートを含む期末試験70%、授業への積極性30%				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	社会学とはどんな学問か			
第2回	社会学の成立、歴史と展開			
第3回	情報化・消費化社会の展開（1）			
第4回	情報化・消費化社会の展開（2）			
第5回	環境の臨界（1）			
第6回	環境の臨界（2）			
第7回	夢の時代と虚構の時代（1）			
第8回	夢の時代と虚構の時代（2）			
第9回	リアリティ・アイデンティティの変容			
第10回	現代人は愛しうるか			
第11回	北の貧困、南の貧困（1）			
第12回	北の貧困、南の貧困（2）			
第13回	現代世界の困難と課題（1）			
第14回	現代世界の困難と課題（2）			
第15回	人間と社会の未来			
【教科書・参考書】				
見田宗介「現代社会の理論」(岩波新書1996年)と「社会学入門」(岩波新書2006年)をテキストとして使用しつつ、適宜参考文献を紹介する。宮島喬編『岩波小辞典社会学』、那須壽編『クロニクル社会学』(有斐閣)、岩波講座『現代社会学』(岩波書店 26巻)				
【学生へのメッセージ】				
日頃から社会問題に関心を持ってほしい。				
【オフィスアワー】				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。				
【実務経験】				
なし				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05175] 教育制度				
期 間	前期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日本における教育制度の原理と歴史の変遷を踏まえ、現在の教育制度が直面する諸課題について、概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
主題は、現代日本の教育制度改革である。1990年代から制度改革が要請される社会的背景、制度理念およびその具体化を教育政策の展開と関連づけて考察する。戦後教育制度の原理とその後の展開、1990年代から始まる教育制度改革の急展開と矛盾を理解し、子どもの学習権を保障する教育制度のありかたを考える力を身につけることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修120分：指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分：テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション。なぜいま教育制度の改革か				
第2回	戦後教育制度の原理とは何であったのか				
第3回	50年代教育制度改革の試みとその挫折				
第4回	60年代.....人的能力開発政策とその矛盾				
第5回	オイルショック後の教育制度の機能不全の進行				
第6回	臨時教育審議会の設置 (84年 - 87年)				
第7回	急速に変わる日本の学校.....少子化のなかでの特色ある学校づくり				
第8回	新自由主義教育改革の登場.....市場原理と公教育のスリム化				
第9回	子どもの権利条約の思想				
第10回	自治体の教育改革の動向				
第11回	教育基本法の改正は何をめざしたのか				
第12回	教育における国家の台頭				
第13回	子ども参加の教育改革の動向(1)				
第14回	子ども参加の教育改革の動向(2)				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教職課程共通に使用する資料として、志村欣一・他編『ハンディ教育六法』（北樹出版）を用意してほしい。竹内常一『日本の学校のゆくえ』（太郎次郎）、竹内常一『教育を変える』（桜井書店）、田沼朗・他編『いま、なぜ教育基本法の改正なのか』（国土社）、高橋哲哉『心と戦争』（晶文社）。					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目			教職課程
講義名	[05176] 公民科教育法			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
公民科の教員として必要となる知識を獲得し、戦前の教育における「公民」と戦後の教育における「公民」概念の相違を理解して、現代社会に必要な「公民」の健全な育成に向けての課程を理解する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
戦後、高等学校の教育課程では学習指導要領の改訂が7回実施された。そして、教育基本法改定に伴い新学習指導要領が中央教育審議会により改訂されている。その中で、「公民の資質」に直接係わる公民科はあらためてその「意義を見直されるべき時期に来ている」と言えるだろう。公民科の教育過程を具体的に知り、その意義を理解することを目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
前半は講義を中心に、公民科の成り立ちを追う。後半は、現在の公民科教育課程についての理解と、受講生それぞれの問題意識を問う。参考書などを用いて、当該講義の内容に関する確認を行うこと。プロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学習について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容を指定する。また、必要に応じて資料をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約1時間30分程度を要する。事後学習について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学習などに約2時間を要する。				
【成績評価（方法・基準）】				
学期末試験レポート40%、中間レポート2回30%、授業中の積極性（課題に対する取組み）20%、ノート作成の評価10%。ノートは、授業の要旨がおさえられているか、見やすく整理されているか、受講生の工夫があるか、といった点を評価の対象とする。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション			
第2回	公民という概念の形成 - 西欧と日本 -			
第3回	公民育成の歴史的経緯 - 古代から民主主義まで -			
第4回	学校教育と公民育成の経緯 - 公民的資質 -			
第5回	学校教育と公民科 - 公民科教育 -			
第6回	公民科とは何か - 社会科から公民科へ -			
第7回	公民科の内容 - 現代社会 -			
第8回	公民科の内容 - 現代社会 -			
第9回	公民科の内容 - 現代社会 -			
第10回	公民科の内容 - 倫理 -			
第11回	公民科の内容 - 倫理 -			
第12回	公民科の内容 - 政治経済 -			
第13回	公民科の内容 - 政治経済 -			
第14回	公民科教育の現状			
第15回	公民科教育の課題			
【教科書・参考書】				
テキストは特になし。参考書は、平成4年、14年版『学習指導要領』（文部省）、柿沼、安澤、茂木共編『改訂高等学校学習指導要領の展開』（明治図書）、熊谷一乗著『公民科教育』（学文社）などがある。その他、適宜に授業中に紹介する。				
【学生へのメッセージ】				
資格として教職過程を修めようとするのであれば、欠席は厳禁である。また、公民科は現代社会の問題に直接に関わる科目であることを十分に理解して授業に臨んでもらいたい。				
【オフィスアワー】				
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。				
【実務経験】				
元身延山高等学校教諭(社会科)、元身延町教育委員				

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05177] 公民科教育法
-----	----------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei
-----	-------	-----------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

学習指導要領に求められる「公民科」の教員として必要となるスキルを獲得するための技術と心構えを学修する。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

公民科教育は、現代教育の中で日増しに重要性が再認識されている科目の1つである。人権や環境、社会インフラなどの現代的問題をどのように教授してゆけばよいか。本講義では、シラバス作成の理念を理解し、実際にシラバスを作成し、その内容に則り、単元の授業案を作成し、生徒主体型の授業展開を踏まえて、模擬授業が行えることを目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

講義形態を取るが、実質的に後半はゼミナールと同様である。学生諸君に与えられた課題を演習形式と実技形式で行う。模擬授業を行うので、学習指導案の作成は事前に行っておくこと。模擬授業の後は、教員の指導を書きとめ、指摘された問題点の克服に努めること。最低2回の模擬授業を行っていただく。プロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学習について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容を指定する。また、必要に応じて資料をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約1時間30分程度を要する。事後学習について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学習などに約2時間を要する。

【成績評価（方法・基準）】

学期末試験レポート30%、模擬授業（指導案の作成、資料の内容も評価の対象とする）2回40%、授業中の積極性（課題に対する取り組み）20%、ノート作成の評価10%（ノートは、授業の要旨がおさえられているか、見やすく整理されているか、受講生の工夫があるか、といった点を評価の対象とする）。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション
第2回	公民科教育課程の考え方
第3回	年間授業計画とは何か
第4回	年間授業計画立案の具体例と作成
第5回	学習指導案とは何か
第6回	学習指導案の考え方と授業の組み立て
第7回	IoT機器を用いたアクティブラーニング授業
第8回	アクティブラーニングによる授業の進め方
第9回	授業の構成と進め方
第10回	学習活動の評価方法と考え方
第11回	学習指導案の作成と点検の方法
第12回	模擬授業（その1）
第13回	模擬授業（その2）と（その1）の振り返り
第14回	模擬授業（その3）と（その2）の振り返り
第15回	（その3）の振り返りと公開模擬授業、まとめ

【教科書・参考書】

テキストは特になし。参考書は、平成元年版『学習指導要領』（文部省）、柿沼、安澤、茂木共編『改訂高等学校学習指導要領の展開』（明治図書）、熊谷一乗著『公民科教育』（学文社）などがある。その他、適宜に授業中に紹介する。

【学生へのメッセージ】

模擬授業を重んじるので、平常点の比率が高い。従って、当該時間の欠席はダブルのマイナス点となる。欠席は厳禁である。公民科教育法の単位を修得済みであること。

【オフィスアワー】

火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。

【実務経験】

元身延山高等学校社会科教諭、元身延町教育委員

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目			教職課程
講義名	[05178] 宗教科教育法			
期 間	前期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	高橋 智恂		タカハシ チジュン	takahashi chijyun
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
本授業は、授業を行う際に於いて、年間指導計画、単元の設定、実際の授業展開についての概要を理解するとともに、「釈尊伝」をテーマとした模擬授業を実施することにより、授業のあり様を体感するものである。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
本授業は、「教科指導の方法」を主題とするものである。したがって、受講生諸君にあつては、年間指導計画の立案を始め、学習指導案や授業ノートを作成の上、それらに基づいた模擬授業を実際に体験することを通して、中学・高校の教壇に立って授業を行なう際の具体的方法を身につけることが目標となる。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
受講生諸君には、与えられたテーマに沿って、学習指導案や授業ノートの作成に取り組むとともに、それらに基づいた50分程度の模擬授業を実施してもらう。模擬授業の終了直後、他の受講生および担当教員から、質問とともに、評価すべき点と改善すべき点について具体的な指摘を受ける。模擬授業終了後には、授業を行なう際に用いた学習指導案、資料等を必ず提出すること。なお、宗教科教育法 においては「釈尊伝」を教科科目として設定する。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
2時間以上を目途として事前・事後の学修を行なうこと。事前・事後の学修とともに、授業中の課題に集中する中で、多くを吸収していくことが大切である。				
【成績評価（方法・基準）】				
模擬授業50%、学習指導案等25%、授業に取り組む姿勢25%。上記日程は受講生全員の出席を前提としている。その点には十分留意すること。担当模擬授業の欠席は、特別な理由のない限り、履修放棄とみなす。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	本講義の方針および日程について、シラバスを踏まえて確認			
第2回	宗教科教育課程について			
第3回	年間指導計画の必要性と具体例			
第4回	年間指導計画の作成			
第5回	年間指導計画に基づいた単元の設定について			
第6回	学習指導案の必要性と具体例			
第7回	学習指導案および授業ノートの作成			
第8回	学習指導案および授業ノートの作成 および点検、修正			
第9回	学習指導案および授業ノートに基づく授業展開の確認			
第10回	模擬授業および講評			
第11回	模擬授業および講評			
第12回	講評をふまえての再模擬授業および講評			
第13回	講評をふまえての再模擬授業および講評			
第14回	模擬授業予備日			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
教科書は特に指定しない。必要があれば、その都度、指示する。				
【学生へのメッセージ】				
授業を行なうことの難しさを、まずは実感してほしい。その上で、自身の伸ばすべき点と改めるべき点を見出してほしい。				
【オフィスアワー】				
平日は身延山高等学校に勤務していますので、事前に連絡してください。メールアドレスはttakai@min.ac.jpです。				
【実務経験】				
身延山高等学校教員（宗教科）20年 教科内容：仏教大意、仏教概論、釈尊伝、法華経・、宗義、宗門史、法要式				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程		
講義名	[05179] 宗教科教育法				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	高橋 智恂		タカハシ チジュン	takahashi chijyun	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本授業は、「法華経」をテーマとした模擬授業を実施することにより、授業のあり様を体感するものである。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
本授業は、「教科指導の方法」を主題とするものである。したがって、受講生諸君にあつては、学習指導案や授業ノートを作成の上、それらに基づいた模擬授業を実際に展開することを通して、中学・高校の教壇に立って授業を行なう際の具体的な方法を身につけることが目標となる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
受講生諸君には、与えられたテーマに沿って、学習指導案や授業ノートの作成に取り組むとともに、それらに基づいた50分の模擬授業を実施してもらう。模擬授業の終了直後、他の受講生および担当教員から、質問とともに、評価すべき点と改善すべき点について具体的な指摘を受ける。模擬授業終了後には、授業を行なう際に用いた学習指導案、資料等を必ず提出すること。今年度の教科テーマは「法華経」を教科科目として実施する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
模擬授業の実施にあたって、十分な事前・事後の学修を行なうこと。事前・事後の学修とともに、授業中の課題に集中する中で、多くを吸収していくことが大切である。					
【成績評価（方法・基準）】					
模擬授業50%、学習指導案等25%、授業に取り組む姿勢25%。上記日程は受講生全員の出席を前提としている。その点には十分留意すること。担当模擬授業の欠席は、特別な理由のない限り、履修放棄とみなす。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	本講義の方針および日程について、シラバスを踏まえて確認				
第2回	テーマ（1）「法華経の構成について」 学習指導案および授業ノートの作成				
第3回	学習指導案および授業ノートの作成 および点検、修正				
第4回	模擬授業および講評				
第5回	模擬授業および講評				
第6回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第7回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第8回	テーマ（2）「法華経の内容について」 学習指導案および授業ノートの作成				
第9回	学習指導案および授業ノートの作成 および点検、修正				
第10回	模擬授業および講評				
第11回	模擬授業および講評				
第12回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第13回	講評をふまえての再模擬授業および講評				
第14回	模擬授業予備日				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書は特に指定しない。必要があれば、その都度、指示する。					
【学生へのメッセージ】					
授業を行なうことの難しさを、まずは実感してほしい。その上で、自身の伸ばすべき点と改めるべき点を見出してほしい。					
【オフィスアワー】					
平日は身延山高等学校に勤務していますので、事前に連絡してください。メールアドレスはttakai@min.ac.jpです。					
【実務経験】					
身延山高等学校教員（宗教科）20年 教科内容：仏教大意、仏教概論、釈尊伝、法華経・、宗義、宗門史、法要式					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目		教職課程	
講義名	[05183] 教育実習研究【平成30年度生まで】			
期 間	後期（15回）	単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
教員免許状を取得するためには、教育実習が必修となっていますが、そのための事前事後指導を行います。				
【授業終了時の達成課題（到達目標）】				
教員免許状を取得するための基礎的な履修要件として教育実習が課されているが、この事前・事後指導を行うことを中心的内容とする。教育実習に臨むに当たっての心構えを豊かにし、実習生活を実りあるものとするができるよう努めることが特に求められる。教育実習の内容とそれに向けた準備、その段取り、実習を終えてからの取組みについて理解することを目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学修は、あらかじめ指示された参考文献、資料を読んでおくこと。事後学修は、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。				
【成績評価（方法・基準）】				
授業の性格上、出席と取り組みの姿勢を重視する（50%）。試験レポート(50%)。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	オリエンテーション			
第2回	なぜ教職を志したのか(文書で提出)			
第3回	教育実習とはどういうものか			
第4回	実習校を確保する			
第5回	教師像のイメージづくり、一日学校体験のすすめ			
第6回	学習指導案をつくる			
第7回	教育実習生の心得			
第8回	教育実習のスケジュール確認			
第9回	先輩教師からの助言			
第10回	教育実習手帳を生かす			
第11回	授業づくりと指導案			
第12回	教育実習経験者の体験を聞く			
第13回	教育実習を終えて・・・成果と課題			
第14回	よい教師になるための課題			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
授業中に適宜紹介する。必要な資料は、随時配布する。				
【学生へのメッセージ】				
授業の性格上1/3以上欠席した学生には、単位を与えない。毎回、積極的に授業に参加してほしい。				
【オフィスアワー】				
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。				
【実務経験】				
なし				

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				教職課程
講義名	[05184] 高等学校教育実習				
期 間	通年（1回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	実習
対象学年	--	--	--	4 年	
担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
高等学校において、教員免許状を取得するために必修となっている実習を行います。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
教育実習校において3年次までに履修してきた教職科目を踏まえて、教育現場における実習を通して実践的な力量の基礎を身につけることが主な目的となる。実習期間は各実習校の規則に従い学校長および指導教員の指導監督のもとに実習を行う。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教育実習校における教育実習を主たる内容とする実習科目である。実習内容に関しては、実習校に任せる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習は、指導教諭から指示された課題を必ず行うこと。事後学習は、一日を振り返りながら実習日誌をまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
実習成績、実習記録をもとにした総合評価。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	実習				
【教科書・参考書】					
実習なのでテキストや参考書はありません。					
【学生へのメッセージ】					
教育実習生としての心得を遵守すること。					
【オフィスアワー】					
実習校の指導教諭と打ち合わせること。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目	教職課程

講義名	[05186] 教職実践演習（中・高）【平成30年度生まで】				
-----	--------------------------------	--	--	--	--

期 間	後期（30回）	単 位 数	必修（2）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	--	--	4年
------	----	----	----	----

担当者	田沼 朗	タヌマ アキラ	tanuma akira
-----	------	---------	--------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

教職課程全体を通して、学生諸君が一人前の教師のなるための力量を身につけたかを確認し、さらなる力量向上をめざすための実践的授業を行います。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

教員として必要な知識技能を修得したことを確認するために行うものであり、教育実習を踏まえて、教職課程の総まとめとして行う。

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科に関する科目、教職に関する科目の履修状況、教育実習の成果と課題をふまえて、実践的な課題について演習形式で行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学習は、あらかじめ指示された資料やテキストを読み、自分の意見をまとめておく。（120分以上）

事後学習は、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。（120分以上）

【成績評価（方法・基準）】

期末レポート50%、毎回の授業中の発表50%。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	オリエンテーション
第2回	教育実習の成果と課題
第3回	教育実習の成果と課題
第4回	大学の教職課程、教員に求められる専門性と教育実践演習
第5回	大学の教職課程、教員に求められる専門性と教育実践演習
第6回	現代の子供が直面する課題
第7回	現代の子供が直面する課題
第8回	現代の子供が直面する課題
第9回	現代の子供が直面する課題
第10回	特別支援教育
第11回	特別支援教育
第12回	不登校・学校嫌い
第13回	不登校・学校嫌い
第14回	不登校の子への対応
第15回	不登校の子への対応
第16回	教育機会確保法について
第17回	教育機会確保法について
第18回	いじめ問題
第19回	いじめ問題
第20回	いじめへの対応
第21回	いじめへの対応
第22回	学習指導案の書き方
第23回	学習指導案の書き方
第24回	参加型学習を考案する
第25回	参加型学習を考案する
第26回	模擬授業を行う
第27回	模擬授業を行う
第28回	学校現場が抱える課題
第29回	学校現場が抱える課題
第30回	まとめ

【教科書・参考書】
授業の中で、適宜参考文献や資料を配布し、紹介する。
【学生へのメッセージ】
教職課程の総まとめであるから、教育実習を踏まえ、自らの課題について自覚して授業に臨むこと。
【オフィスアワー】
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。
【実務経験】
なし

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05201] 社会教育計画 【平成31年度生まで】						
期 間	前期（15回）		単位数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
我が国における社会教育の経緯、方法、内容について学びます。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	オリエンテーション (授業の概要説明)						
第2回	生涯学習推進行政と社会教育行政						
第3回	社会教育の意義と内容						
第4回	社会教育の方法・形態						
第5回	公民館とは						
第6回	図書館とは						
第7回	博物館とは						
第8回	コミュニケーション・スキル						
第9回	ワークショップの技法						
第10回	集団思考法、組織心理学						
第11回	コーディネーター、ファシリテーター、アドミニストレーター、インタープリター、アドバイザー、アセッサー						
第12回	プランニング						
第13回	プレゼンテーション						
第14回	ワークショップの計画						
第15回	ワークショップの実際						
【教科書・参考書】							
講義の中で適宜紹介します。							
【学生へのメッセージ】							
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。							
【オフィスアワー】							
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpをお願いします。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程	
講義名	[05202] 社会教育計画 【平成31年度生まで】					
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年		
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。						
【授業修了時の達成課題（到達目標）】						
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業中の小テストや課題など60%、学期末の試験40%						
【授業計画（各回の授業内容）】						
第1回	社会教育の方法					
第2回	社会教育と学校教育の関係					
第3回	アメリカとヨーロッパと日本の社会教育財政事情					
第4回	学習成果の活用方法・評価方法					
第5回	教育普及活動					
第6回	アドミニストレーター、インタープリター、ファシリテータ					
第7回	ワークシートの要点					
第8回	NPOの役割 アソシアシオン法					
第9回	市民と行政のパートナーシップ、PFI、PPP					
第10回	アウトリーチの歴史と方法					
第11回	ハンズ・オンとプリーズタッチ					
第12回	リピーターへの視点					
第13回	ボランティアの養成					
第14回	指定管理者制度					
第15回	総括					
【教科書・参考書】						
講義の中で適宜紹介します。						
【学生へのメッセージ】						
社会教育計画1を履修済みであることが望ましい。						
【オフィスアワー】						
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpにお願いします。						
【実務経験】						
なし						

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05203] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05211令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習の広がりの中での社会教育活動の歴史と現状を、主として地域、自治体における施設・事業・団体・グループとの係わりで検討していく。場合によっては、テーマを絞って共同学習することもある。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて、学習し発表・討論する力を身につけることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	オリエンテーション。社会教育の意義				
第2回	成人の学習の国際的展開				
第3回	日本における社会教育活動の展開（1）				
第4回	日本における社会教育活動の展開（2）				
第5回	生涯教育と生涯学習				
第6回	地域づくり・まちづくり実践から（1）東京・谷中				
第7回	地域づくり・まちづくり実践から（2）大分・湯布院				
第8回	地域づくり・まちづくり実践から（3）沖縄・伊江島				
第9回	地域づくり・まちづくり実践から（4）福島・三春				
第10回	地域づくり・まちづくり実践から（5）新潟・聖籠				
第11回	地域づくり・まちづくり実践から（6）東京・国立				
第12回	地域づくり・まちづくり実践から（7）合併しない町・村サミット				
第13回	地域づくり・まちづくり実践から（8）沖縄・名護				
第14回	地域づくり・まちづくり実践から（9）森は海の恋人				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05204] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05212令和2年度生より】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）		種 類	講義
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
「社会教育課題研究」と連続している。社会教育に関する今日的課題を取り上げ、実際の取り組みを学習し検討することを目的とする。参加者の課題意識が一致すれば、テーマを絞って共同学習することもある。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて学習し、発表・討論する力を身につけることを目標とする。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。							
【成績評価（方法・基準）】							
レポートを含む期末試験70%、授業への取り組み姿勢30%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	現代青年の文化活動（1）						
第2回	現代青年の文化活動（2）						
第3回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（1）						
第4回	平和・軍縮学習と平和文化の創造（2）						
第5回	子育て・文化協同（1）						
第6回	子育て・文化協同（2）						
第7回	環境問題に取り組む市民（1）						
第8回	環境問題に取り組む市民（2）						
第9回	人権学習（1）						
第10回	人権学習（2）						
第11回	ボランティア活動（1）						
第12回	ボランティア活動（2）						
第13回	青年の自立支援（1）						
第14回	青年の自立支援（2）						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光『国際教育の研究』桐書房							
【学生へのメッセージ】							
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。							
【オフィスアワー】							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05207] 社会教育経営論 【令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育計画の計画体系と評価体系、学習展開計画案、各地の具体的な推進計画について解説する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	対話型討論：「社会教育とは何を指すのか」				
第2回	教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）				
第3回	社会教育計画の計画体系と評価体系				
第4回	社会教育計画の具体的な学習展開計画案				
第5回	社会教育計画の実例の検討				
第6回	社会教育関連施設のネットワーク化				
第7回	人的ネットワークの活用（NPO、地縁団体、テーマ別グループ、人材バンク）				
第8回	コーディネーターによる学習支援（橋渡し、循環、情報提供、コーチングなど）				
第9回	社会教育調査とデータの活用				
第10回	学習成果を発表する場づくり				
第11回	子ども読書活動推進計画				
第12回	芸術文化振興に関する計画				
第13回	スポーツ振興に関する計画				
第14回	家庭の教育力向上の支援、親力向上推進計画				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05208] 社会教育経営論 【令和2年度生より】				
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（2）	種 類 講義
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていく方法論や実際の具体的な事例について解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学習の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	まちづくり・地域活性化策としての社会教育				
第2回	社会教育と住民参加				
第3回	社会教育施設と専門職員・コーディネーターが果たす役割				
第4回	地域フィールドワークによる学習課題の抽出				
第5回	学習成果の公開と評価				
第6回	ヨコのネットワークとタテのネットワーク				
第7回	青少年の居場所づくりと青少年リーダーの育成				
第8回	障害者とともに学ぶ仕組み				
第9回	事例の検討：静岡県富士宮市、長野県飯田市				
第10回	事例の検討：徳島県上勝町、長野県下條村				
第11回	事例の検討：滋賀県長浜市、石川県輪島市				
第12回	事例の検討：長野県飯山市、京都府美山町				
第13回	事例の検討：新潟県村上市、大分県豊後高田市				
第14回	成果発表				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。社会教育経営論1を履修済みであることが望ましい。					
【オフィスアワー】					
毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程
講義名	[05209] 社会教育課題研究【令和2年度生より】				
期 間	前期（15回）		単 位 数	必修（2）	
種類	講義				
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。この授業では、地域住民が主体的に学ぶ社会教育活動の課題について、主として地域づくり、まちづくりに関する実践例を取り上げて、相互に検討していきたい。授業の性格上、参加者が主体的にテーマを決めて参加してほしい。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会教育制度及びその理念、社会教育施設の役割、職員の任務を理解する。社会教育活動が直面する所課題について、理解する。参加者が主体的にテーマを決め、学習し発表・討論する力を身につける。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義・演習の併用方式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君にも報告をお願いする。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	社会教育の理念と制度				
第3回	ユネスコ学習権宣言とその展開				
第4回	戦後日本社会の変容と社会教育の課題				
第5回	地域開発、公害問題				
第6回	森林保護と漁業の発展				
第7回	原子力発電をめぐる諸問題				
第8回	少子高齢化、過疎化とまちづくり				
第9回	日本社会の格差と貧困				
第10回	子ども食堂				
第11回	義務教育費の無償化とまちづくり				
第12回	性的マイノリティの人権				
第13回	地域づくり実地調査...柴又、谷中、根津、千駄木				
第14回	社会的ひきこもり者支援				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得課程		
講義名	[05210] 社会教育演習【令和2年度生より】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。地域住民が主体的に学ぶ拠点である社会教育施設の具体的役割について、実践的に学ぶことを目的とします。身延町をはじめ山梨、長野、東京各地の公民館活動、住民が企画する学びの実態について具体的事例を通して学びます。必要に応じて、文献研究、実地調査も行います。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
地域における人々の学びの拠点である社会教育施設の機能、学習支援者としての職員の枠割を理解する。学習講座企画と省察を通して、社会教育支援者としての実践的力をつける。グループ活動を通して、仲間と共に探求、実践し、地域社会を形成する力をつける。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
演習形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君に発表をお願いする。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。							
【成績評価（方法・基準）】							
発表を含む期末レポート70%、授業への取組み姿勢30%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	ガイダンス						
第2回	学びの拠点としての社会教育施設						
第3回	学習支援者としての社会教育主事の専門性						
第4回	身延町の社会教育施設（公民館）						
第5回	身延町の社会教育施設(中富和紙の里)						
第6回	身延町の社会教育施設（金山博物館）						
第7回	参加者からの講座企画案の検討（1）						
第8回	参加者からの講座企画案の検討（2）						
第9回	環境問題の講座企画事例						
第10回	平和教育の講座企画事例						
第11回	社会の格差と貧困についての講座企画事例						
第12回	家族支援についての講座企画事例						
第13回	文化活動についての講座企画事例						
第14回	地域の過疎化対策についての講座企画事例						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容 『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一 『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光 『国際教育の研究』 桐書房							
【学生へのメッセージ】							
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。							
【オフィスアワー】							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09005] 文法 (Grammar)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験 (JLPT) N2のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	1課：～とき・～直後に、2課：～している (進行中)						
第3回	3課：～後で、4課：範囲の始まりと終わり・その間						
第4回	5課：～だけ、6課：～だけではなく・それに加えて						
第5回	7課：～について・～を相手にして、8課：～を基準にして						
第6回	9課：～に関連して・～に対応して、10課：～や～など						
第7回	11課：～に関係なく・無視して、12課：強く否定する・強く否定しない						
第8回	13課：～ (話題) は、14課：～けれど						
第9回	15課：もしそうなら・たとえそうでも、16課：～だから (理由)						
第10回	17課：～だから (理由) 、18課：～できない・困難だ・～できる						
第11回	19課：～を見て評価すると・～の立場で評価すると、20課：結果はどうなったか						
第12回	21課：強く言う・軽く言う、22課：～だろうと思う						
第13回	23課：感想を言う・主張する、24課：提案する・意志を表す						
第14回	25課：強くそう感じる・思いが強いられる、26課：願う・感動する						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N2』友松悦子他著 (スリーイーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N2 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
【学生へのメッセージ】							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 [https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html]							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09006] 文法 (Grammar)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	第2部1課：文の組み立て ; 決まった形						
第2回	第2部2課：同上 ; 名詞を説明する形式						
第3回	第2部3課：同上 ; 接続に注意						
第4回	第3部1課：時制						
第5回	第3部2課：条件を表す文						
第6回	第3部3課：視点を動かさない手段 ; 動詞の使い方、自動詞・他動詞の使い分け						
第7回	第3部4課：同上 ; 「～てくる・～ていく」の使い分け						
第8回	第3部5課：同上 ; 受身・使役・使役受身の使い分け						
第9回	第3部6課：同上 ; 「～てあげる・～てもらう・～てくれる」の使い分け						
第10回	第3部7課：指示表現「こ・そ・あ」の使い分け						
第11回	第3部8課：「は・が」の使い分け						
第12回	第3部9課：接続表現						
第13回	第3部10課：省略・繰り返し・言い換え						
第14回	第3部11課：文体の一貫性						
第15回	第3部12課：話の流れを考える						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
【学生へのメッセージ】							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 〔 https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html 〕							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09007] 文法 (Grammar)						
期 間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byung kon		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	1課：時間関係、2課：範囲の始まり・限度						
第3回	3課：限定・非限定・付加、4課：例示						
第4回	5課：関連・無関係、6課：様子						
第5回	7課：付随行動、8課：逆接						
第6回	9課：条件、10課：逆接条件						
第7回	11課：目的・手段、12課：原因・理由						
第8回	13課：可能・不可能・禁止、14課：話題・評価の基準						
第9回	15課：比較対照、16課：結末・最終の状態						
第10回	17課：強調、18課：主張・断定						
第11回	19課：評価・感想、20課：心情・強制的思い						
第12回	模擬試験						
第13回	模擬試験						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。							
【学生へのメッセージ】							
今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 〔 https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html 〕							
【オフィスアワー】							
授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。							
【実務経験】							
同時通訳・翻訳業務の実績あり							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09011] 作文 (Composition)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への参加姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	代名詞の使い方 1						
第3回	代名詞の使い方 2						
第4回	代名詞の使い方 3 まとめ						
第5回	接続詞の使い方 1						
第6回	接続詞の使い方 2						
第7回	接続詞の使い方 3 まとめ						
第8回	モノの表現法 相違点と相似点 1						
第9回	モノの表現法 相違点と相似点 2						
第10回	モノの表現法 相違点と相似点 3						
第11回	意見を述べる 1						
第12回	意見を述べる 2						
第13回	意見を述べる 3						
第14回	課題作文 (原稿用紙を使用)						
第15回	課題作文 (レポート用紙を使用)						
【教科書・参考書】							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
【オフィスアワー】							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
【実務経験】							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09012] 作文 (Composition)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
読む事から書く事へ。文章作成の基礎を学ぶ。日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
講義への取り組み姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション 日本語能力試験にむけて						
第2回	まぎらわしい表現 1						
第3回	まぎらわしい表現 2						
第4回	まぎらわしい表現 3						
第5回	使用されている間違った日本語表現 接続詞						
第6回	使用されている間違った日本語表現 否定						
第7回	使用されている間違った日本語表現 敬語						
第8回	使用されている間違った日本語表現 代名詞						
第9回	使用されている間違った日本語表現 口語表現						
第10回	中間報告 レポート作成						
第11回	討論 その1						
第12回	討論 その2						
第13回	討論 その3						
第14回	課題・報告書作成						
第15回	課題・報告書作成						
【教科書・参考書】							
教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。							
【オフィスアワー】							
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp)							
【実務経験】							
宗教法人法養寺代表役員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09013] 聴解 (Listening Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本人の会話レベルの聴解ができるよう、さまざまな状況下の「会話」や近年の「時事」について、テキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等についても取り上げ、幅広く内容理解ができるようにする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
この授業では、受講生が日本語の聴き取りに慣れ、日本語能力検定試験合格レベルまで日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。基礎的な聴き取りから複合的な内容まで含め、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、実践的な日本語の理解・習得を図る。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション 簡単な聞き取り						
第2回	会話 (その1)						
第3回	会話 (その2)						
第4回	会話 (その3)						
第5回	会話 (その4)						
第6回	会話 (その5)						
第7回	会話 (その6)						
第8回	会話 (その7)						
第9回	会話 (その8)						
第10回	時事 (その1)						
第11回	時事 (その2)						
第12回	時事 (その3)						
第13回	時事 (その4)						
第14回	時事 (その5)						
第15回	まとめ 聴解 への布石						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
【学生へのメッセージ】							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。練習の方法は授業で解説します。							
【オフィスアワー】							
火曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25、木曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09014] 聴解 (Listening Comprehension)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本人の会話レベルの聴解ができるようテキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等について、学生が調べ、プレゼンテーションをする機会を設ける。日本語能力試験を視野に、練習問題に取組むことで、必要なスキルを修得する。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
この授業では、聴解に引き続き、日本語能力検定試験合格レベルまで受講生の日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。複雑な内容でも、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、さらなる実践的な日本語の理解・習得を図る。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	練習問題 (その1)						
第3回	練習問題 (その2)						
第4回	練習問題 (その3)						
第5回	練習問題 (その4)						
第6回	練習問題 (その5)						
第7回	練習問題 (その6)						
第8回	練習問題 (その7)						
第9回	練習問題 (その8)						
第10回	練習問題 (その9)						
第11回	練習問題 (その10)						
第12回	練習問題 (その11)						
第13回	練習問題 (その12)						
第14回	模擬試験・解説 (その1)						
第15回	模擬試験・解説 (その2)						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。							
【学生へのメッセージ】							
授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。授業では映画なども見ていくことを予定しています。							
【オフィスアワー】							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09016] 会話 (Conversation)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
目的に応じた自然な会話や口頭発表ができるように、実際の場面を模擬的に体験、練習する。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
話すべき内容とその構成を意識しながら話す力を身につける。自分の考えや気持ちを根拠を示して伝えることができるようになる。抽象的なことが話せ、聞き手の理解や反応に応じた話し方ができるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
会話 で習得した技能をもとに、学生自身が話題提供を行ったり、提案されたテーマについてディスカッションを行う。学外において発表の機会を持つ。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (50%)、学力確認テストおよび発表 (50%) により総合的に判断します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	好きなシーンを紹介しよう						
第2回	子どもたちに母国の行事を紹介しよう						
第3回	グラフや表を説明しよう						
第4回	困った状況を伝えて交渉しよう						
第5回	不満に対処しよう						
第6回	就職試験制度について説明しよう						
第7回	働くことの意義について討論しよう						
第8回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討						
第9回	身延中学校での交流授業に向けて：発表原稿の作成 / 授業の進め方の検討と練習						
第10回	スピーチコンテストのリハーサル						
第11回	身延中学校での交流授業に向けて：プレゼンテーション						
第12回	心に残る言葉						
第13回	留学生生活を振り返って						
第14回	将来の夢を語ろう						
第15回	まとめ・発表						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語超級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
【オフィスアワー】							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09018] 漢字 (Chinese Character)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導していく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N 1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その1						
第3回	同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その2						
第4回	訓読みを覚えよう その1						
第5回	訓読みを覚えよう その2						
第6回	難しい読みを覚えよう その1						
第7回	難しい読みを覚えよう その2						
第8回	語彙で覚えよう その1						
第9回	語彙で覚えよう その2						
第10回	語彙で覚えよう その3						
第11回	語彙で覚えよう その4						
第12回	いろいろな覚え方をしよう その1						
第13回	いろいろな覚え方をしよう その2						
第14回	新聞を読もう その1						
第15回	新聞を読もう その2						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語能力試験対策、日本語総まとめN1』（アスク出版）2010年。他に『漢字マスターN1』（三修社）2011年も用いる。参考書：『漢字ビギナーズ、24の法則でわかる』武部良明（アルク）2014年。ほか講義時に指示する。							
【学生へのメッセージ】							
語学学習には事前・事後学習に時間をかける必要があります。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09019] 語彙 (Vocabulary)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N 1、N 2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)2011年							
『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版)2011							
『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年							
【学生へのメッセージ】							
語学学習は、事前学習と事後学習がとても重要です。たくさん課題も出しますががんばって受講してください。							
【オフィスアワー】							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09021] 漢字 (Chinese Character)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導してゆく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第1～第2回						
第3回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第3～第4回						
第4回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第5～第6回						
第5回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第7～第8回						
第6回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第9～第11回						
第7回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第12～第13回						
第8回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第14～第17回						
第9回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第18～第21回						
第10回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第22～第24回						
第11回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第25～第28回						
第12回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第29～第31回						
第13回	言葉の構成について						
第14回	音の変化について						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』。参考書：『漢字引きナース 24の原則でわかる』武部良明 (アルク社) 2014年、『漢字のなりたち (日英対訳)』白川静 (平凡社) 2016年。							
【学生へのメッセージ】							
語学学習には事前・事後学習に時間をかける必要があります。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09022] 語彙 (Vocabulary)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N 1、N 2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	演習						
第3回	演習						
第4回	演習						
第5回	演習						
第6回	演習						
第7回	演習						
第8回	演習						
第9回	演習						
第10回	演習						
第11回	演習						
第12回	演習						
第13回	演習						
第14回	演習						
第15回	演習						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)2011年							
『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版)2011							
『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年							
【学生へのメッセージ】							
事前・事後学習をきちんと行って、日本語習得につとめてください。							
【オフィスアワー】							
水曜2限(要予約、ookada@min.ac.jp)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09023] 文法 (Grammar)						
期 間	後期 (15回)		単 位 数	選 択 (1)		種 類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、基本的には読解に力を入れ、その中で必要に応じて文法事項の確認を行っていく。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み30%、模擬試験70%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス：テキストの例題をやってみよう						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その1						
第3回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その2						
第4回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その3						
第5回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その4						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その1						
第7回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その2						
第8回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その3						
第9回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その4						
第10回	第3部 実戦問題 その1						
第11回	第3部 実戦問題 その2						
第12回	第3部 実戦問題 その3						
第13回	第3部 実戦問題 その4						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめおよび振り返り						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年、 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年							
【学生へのメッセージ】							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
【オフィスアワー】							
水曜日1時限目と木曜日5時限目							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09024] 読解 (Reading Comprehension)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
日本語能力試験 (N1、N2) 合格レベルの日本語能力を取得する。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
毎回の演習50%、課題50%							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる。						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)						
第3回	同上 (2)						
第4回	同上 (3)						
第5回	同上 (4)						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)						
第7回	同上 (2)						
第8回	同上 (3)						
第9回	同上 (4)						
第10回	第3部 実戦問題 (1)						
第11回	同上 (2)						
第12回	同上 (3)						
第13回	同上 (4)						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめと振り返り						
【教科書・参考書】							
『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011、『日本語能力試験問題集N1読解スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版) 2011、『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011。							
【学生へのメッセージ】							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
【オフィスアワー】							
木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09025] 読解 (Reading Comprehension)						
期間	後期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日本語能力試験のN1あるいはN2の合格を目標として、指定されたテキストに沿って読解力を高める授業を行う。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験のN1あるいはN2に合格することを目標とする。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業での取り組み：70%、N1あるいはN2模擬試験：30%。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス、テキストの例題をやってみる						
第2回	実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1)						
第3回	同上 (2)						
第4回	同上 (3)						
第5回	同上 (4)						
第6回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1)						
第7回	同上 (2)						
第8回	同上 (3)						
第9回	同上 (4)						
第10回	第3部 実戦問題 (1)						
第11回	同上 (2)						
第12回	同上 (3)						
第13回	同上 (4)						
第14回	模擬試験						
第15回	まとめと振り返り						
【教科書・参考書】							
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年							
【学生へのメッセージ】							
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。							
【オフィスアワー】							
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	全専攻共通 日本語科目				日本語能力試験取得課程		
講義名	[09026] 会話 (Conversation)						
期間	前期 (15回)		単位数	選択 (1)		種類	演習
対象学年	1年	2年	3年	4年			
担当者	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
この授業では「話す」技能に焦点をあて、日常生活の会話が円滑にできるよう毎回テーマを決め、発表をする機会を設ける。またテキストやディスカッション、ロールプレイを通して多角的に「話す」力の向上ができるよう、授業展開をする。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
個人的、一般的な興味に関する話題についての詳細な説明、描写、叙述する力を身につける。この授業を受けることにより、日常生活で円滑なコミュニケーションができるようになる。また、日本語で分かりやすく発表できるようになる。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
「話す」技能に焦点を当てた授業である。会話やプレゼンテーションについて、分かりやすく伝えるためにどのような話し方が適切かをテキストやディスカッション、ロールプレイを通して学ぶ。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
この授業では、毎回2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。							
【成績評価 (方法・基準)】							
授業への取り組み姿勢 (50%)、期末試験および発表 (50%) により総合的に判断します。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	自己紹介で好印象を与えよう						
第3回	きっかけを話そう						
第4回	町の様子を話そう						
第5回	健康について話そう						
第6回	自分の特技について伝えよう						
第7回	言い換えて説明しよう						
第8回	印象に残った出来事を話そう						
第9回	比べて良さを伝えよう						
第10回	動きの順序を説明しよう						
第11回	ストーリーを話そう						
第12回	最近の出来事を話そう						
第13回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その1						
第14回	身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その2						
第15回	まとめ・発表						
【教科書・参考書】							
教科書：『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。 日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。							
【オフィスアワー】							
火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員							

対象年度	学科・科目				分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[01615] 仏教と社会活動				
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（2）	種 類
対象学年	1年	2年	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ボランティア活動と宗教的实践について学ぶ。ボランティアとは何か、具体的な活動の事例、遵守事項と振り返りについての理解を深め、間違いの起こらない活動、つまりはリスクを回避して、行すべき活動がしっかりと遂行できるノウハウを学ぶ。そして、その活動の支柱となる仏教の精神性についての理解を深め、実際の活動との整合を確かめる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
現代社会における実践的仏教行動論とその精神的基盤の紹介（救援活動、現代社会における宗教活動、若年者との関わり、終末期のヴィハーラ活動）と、自分自身のいのち、および現代社会における寺院・僧侶のあり方を考え、具体へと結び付けられるプロセスを学び、自己実現へのスキルを獲得できることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
考え方の基礎となる部分を講義で、具体的な実践活動の紹介をディスカッションを通して学び、仏教福祉の社会活動に対する考えをまとめる。福祉施設の現状や問題を理解して、当事者に寄り添うことを学べるように事例を研究する。そして、実際の活動現場に赴き、五感を使い体験を通して、スキルの獲得に努める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回授業形態が異なるので事前学習に要する時間も異なるが、講義の場合は、概ね2時間の事前事後学習時間、演習の場合は、事前が3時間、事後が2時間、活動現場に赴く際はその活動に見合った基礎スキルが獲得されるまでが事前学習と定め、事後学習はその振り返りとする。					
【成績評価（方法・基準）】					
講義内容の確認を試験で30%、演習と事例研究が40%でレポートによる、そして実際の活動スキルが獲得されているかが30%（ルーブリック形式）である。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	講座開設の趣旨、目的と成果、評価方法と仏教と福祉の関係からいのちに関するオートノミーの解説。				
第2回	仏教的な社会貢献と身延山大学				
第3回	寄り添うとはどういうことか～大学の社会的貢献に関するディスカッション				
第4回	いのちの尊厳～福島放射能汚染（DVDの視聴とディスカッション）				
第5回	東日本大震災と日本人の死生観				
第6回	若年者と仏教との関わり				
第7回	こども食堂や学習支援活動の方法				
第8回	こどもをどうやって支えていくか？（事例とディスカッション）				
第9回	ヴィハーラ活動とは何か。歴史的観点から定義する。				
第10回	高齢者との関わり方、障がい者との関わり方と仏教的方法論				
第11回	ヴィハーラ活動としての寺院のあり方を考える（事例とディスカッション）				
第12回	寺院の時代的ニーズを探る（青少年活動、育英会活動等、ボランティア活動等社会に訴える）				
第13回	寺院の時代的ニーズを探る（永代供養、葬儀の必要性）				
第14回	仏教福祉活動の実践（実際の活動を行う）				
第15回	まとめ（実際の活動報告と振り返り）				
【教科書・参考書】					
講義回ごとに紹介する。事前に購入するものは無いが、『仏教社会福祉入門』（法蔵館）と『仏教社会福祉辞典』は頻繁に使用する。					
【学生へのメッセージ】					
楽しく授業に参加、ディスカッションを通して自分の意見や考えを持って毎回授業に望むこと。資料をよく読んで自分で考えること。					
【オフィスアワー】					
火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami@min.ac.jp）。					
【実務経験】					
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員、身延町ふるさと創生委員					

対象年度	学科・科目				分野	
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目	
講義名	[01618] カウンセリング入門					
期 間	後期（15回）		単 位 数	選 択（2）		種 類 講 義
対象学年	1 年	2 年	3 年	4 年		
担当者	稲永 澄子		イナナガ スミコ		inanaga sumiko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
心の治療（カウンセリング）とは何かを、さまざまな技法を学びながら考えていく。「野の医者は笑う 心の治療とは何か」東畑開人著（誠信書房）を副読本とする。授業開始日までに読み終えておくこと。						
【授業修了時の達成課題（到達目標）】						
カウンセリングとは何か、その目的や方法を理解し、真のカウンセリングマインドを身につける。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
講義を主体とし、演習も取り入れる。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
この授業では、毎回60分程度の事後の学習を行うこと。事後学習では、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。整理してわからなかったところを次回の授業最初の質問時間に質問して明らかにすること。						
【成績評価（方法・基準）】						
期末試験（50％）、授業への取組の姿勢（50％）。出席率が50％に満たない場合は、試験を受けることができない。						
【授業計画（各回の授業内容）】						
第1回	「野の医者は笑う」の読後ディスカッション					
第2回	ここはどこにあるの？（こころのとらえ方）					
第3回	カウンセリングの理論1：精神分析療法1（フロイトの時代）フロイト、ユング					
第4回	カウンセリングの理論2：条件反射（パブロフ）					
第5回	カウンセリングの理論3：精神分析療法2（新フロイト派）A.フロイト、M.クライン					
第6回	カウンセリングの理論4：クライアント中心療法（ロジャーズ）					
第7回	カウンセリングの理論5：認知療法（ベック）うつ病の認知療法					
第8回	カウンセリングの理論6：認知行動療法（認知再構成法、行動活性化）					
第9回	カウンセリングの理論7：行動療法（スキナー）ABA行動分析					
第10回	カウンセリングの理論8：第3世代の認知行動療法 マインドフルネスと瞑想					
第11回	カウンセリングの理論9：日本のカウンセリング理論（森田療法）					
第12回	カウンセリングの理論10：グループカウンセリング（エンパワメントとセルフヘルプグループ）					
第13回	カウンセリングの理論11：ポストモダンの心理療法（解決志向・エリクソン催眠・自我状態療法）					
第14回	カウンセリングの理論12：身体志向のカウンセリング(EMDR・SE・BSPなど)					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
「野の医者は笑う 心の治療とは何か」東畑開人著（誠信書房）、「精神科医松井紀和が語るカウンセリングを学ぶ人のための心理療法の基礎と実際」、「『うつ』を生かすーうつ病の認知療法」大野裕著（星和書店）、「いじめられっ子の流儀」ケイト・コーエン・ポージー著 奥田健次監訳（学苑社）						
【学生へのメッセージ】						
真剣にカウンセリングを学びたい学生を望む。						
【オフィスアワー】						
講義の時間帯						
【実務経験】						
借成会住吉病院心理士（30年）クライアントのニーズに応じたカウンセリングの基本を実例や模擬実習を取り入れて講義する。						

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[01622] 家庭教育【資格06617】
-----	-----------------------

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko
-----	-------	---------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

家庭で子どもを教育する際の基礎知識の修得を目指す。また学生自身が子どもや保護者の支援方法の視点を培うことができるよう、具体的に説明をする。現代の家庭教育について子どもや家庭教育をめぐる諸問題について各回で取り上げ、受講生の理解を深める。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

この授業では、現代の家庭教育における諸問題について考察し、子どもの発達過程における家庭教育の役割やその方法について理解することを目的とする。授業を通じて、受講生は、家庭教育の現状と課題について理解するとともに、家庭で保護者がすぐにチャレンジできる知識や技術を習得できる。

【授業方法（フィードバックの内容）】

毎回テーマにそって講義を進める。内容によって、演習、ディスカッションも行う。授業の中では、家庭で子どもを教育する場合の知識や技術について具体的に紹介する。受講生同士アイデアを出し合い、できる限り多くの知識・技術を習得できるようにする。さらに、毎回学んだ内容をまとめることで定着を図る。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、予め次回テーマを伝えるので、それに関する情報収集等の予習を行うこと。事後学習では、毎回課題を課すため、必ず取り組み、学んだことを整理すること。

【成績評価（方法・基準）】

授業内容確認テスト（50％）、授業への取り組み（30％）、課題への取り組み（20％）により総合的に評価する。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	家庭教育とは？ / 現代の家庭教育における課題
第2回	子どもの発達と家庭教育（その1）
第3回	子どもの発達と家庭教育（その2）
第4回	遊ぶこととしつけ
第5回	しつけをバッドサイクルからグッドサイクルへ / 家庭教育のポイント
第6回	家庭教育がうまくいかなるとき
第7回	子どもの発達を促す日常生活の工夫
第8回	子どもがかかえる要因別生活スキルの身につけ方（その1）
第9回	子どもがかかえる要因別生活スキルの身につけ方（その2）
第10回	子どもがかかえる要因別ソーシャルスキルの身につけ方（その1）
第11回	子どもがかかえる要因別ソーシャルスキルの身につけ方（その2）
第12回	子どもがかかえる要因別運動スキルの身につけ方
第13回	子どもがかかえる要因別認知 / 学習スキルの身につけ方
第14回	子どもの問題行動への対応
第15回	まとめ：授業全体の振り返り

【教科書・参考書】

教科書：毎回プリントを配布する。参考書：『むずかしい子を育てるペアレント・トレーニング』野口啓示著（明石書店）2009年、『家庭教育論』住田正樹著（放送大学教育振興会）2012年、『イラスト版 発達障害児の楽しくできる感覚統合 感覚とからだの発達をうながす生活の工夫と遊び』太田篤志著（合同出版）2013年、『発達に気になる子への生活動作の教え方』立石加奈子・中島そのみ著（中央法規）2013年、『発達に気になる子へのソーシャルスキルの教え方』立石加奈子・中島そのみ著（中央法規）2013年

【学生へのメッセージ】

家庭での教育は、保育所、幼稚園、学校以外を除いた場合、子どもにとってもっとも重要な経験です。子育ての専門家として関わる場合には、子育て支援について知識と技術を必要とします。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。

【オフィスアワー】

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01680] 地域福祉演習【資格06680】				
期間	後期（15回）	単位数	必修（1）	種類	講義と演習、実践
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei
	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
地域社会と福祉の関係を、共同体と個人の視点から捉え、これからの地域福祉の抱える問題を講義する。その上で、現在想定出来得る地域福祉の課題を取り上げ、演習を通して実際の模擬活動を行い、課題解決のプロセスを体験し、その方法を習得する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
社会福祉の分野で、仏教者や仏教の諸要素がいかに係ることができるか、実践例をあげながら考察する。また、仏教を基調にした社会福祉法人の運用する施設見学などを通して、仏教福祉の将来的な可能性についても考察する。したがって、受講生は、公益法人である社会福祉法人の一員としての役割と、人間性の発露としての福祉活動との接点を見据えられるようになることが目標である。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
基本的には講義形式であるが、施設見学と実際のボランティアも経験する。講義に臨む際には、あらかじめ資料を提示するので、予習が必要である。また、見学等に関してはその施設の概略を事前に調べる必要がある。受講後は、レポートが課せられるので、資料をよく整理しておくこと。プロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末試験レポート（40%）、中間レポート3回（30%）、平常点（30%、含：施設見学）。各講義の最後に次回講義の概略を説明するので、その内容に沿った参考書等を熟読しておくこと。受講後は講義ノートを整理して、内容の理解に努めること。それぞれ1時間30分以上の学習時間が必要である。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	授業の進め方と成績評価の考え方の説明。授業に取り入れる活動に関する説明と、留意点の提示。				
第2回	授業の進め方と成績評価の考え方の説明。授業に取り入れる活動に関する説明と、留意点の提示。				
第3回	地域福祉の実際（県、市、町の活動と政策）理解				
第4回	社会福祉(生活困窮者自立支援法の行方)と仏教福祉活動				
第5回	地域福祉の事例				
第6回	地域福祉の事例				
第7回	地域福祉の担い手と活動の内容				
第8回	利用者との関わり（身体障害者）				
第9回	利用者との関わり（高齢者）				
第10回	利用者との関わり（さまざまな人々との関わり）				
第11回	地域課題と解決方法				
第12回	地域課題と解決方法				
第13回	改善策の実行と検証、修正				
第14回	修正策の検証とニーズ満足度の調査				
第15回	調査の分析とまとめの作成、事業主体者への報告と評価				
【教科書・参考書】					
教科書：「事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク」 川村隆彦著 中央法規出版。					
【学生へのメッセージ】					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 ただ講義を聴くだけでなく、内容を理解した上で、積極的に講義に参加して、技術習得に努めてもらいたい。「仏教福祉学概論」を履修済であること。					
【オフィスアワー】					
池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。 高橋賢充：火曜日1限目と水曜日2限目					
【実務経験】					
池上要靖：宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員 高橋賢充：社会福祉士					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目		
講義名	[01681] 地域福祉実践【資格06681】						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	--	--	3年	4年			
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei		
	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】							
地域における福祉活動を通して、現状の問題点を抽出して、その具体的な解決方法を、周囲と連携、調整して解決してゆく。PDCAサイクルの考え方と実際を学ぶ。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
福祉現場で求められている「考える力」「言語化する力」「文章化する力」「協働する力」を身につける。事例をとおして学んだことを、福祉現場にて実践し、福祉現場で必要な能力を身につける。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
リアクションペーパーを使用し、教員と学生の双方向の授業を展開していく。毎回の授業で提出するリアクションペーパーは、授業の理解度だけではなく、自らが考える力を身につけるために実施する。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。							
【成績評価（方法・基準）】							
毎回の授業のリアクションペーパー・授業で出される課題の内容 20%、レポート 30%、定期試験 50%							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	授業の進め方と成績評価の方法（ループリック形式）の説明。福祉実践とは何か。						
第2回	福祉実践に必要なスキルと事例（利用者との関わり）						
第3回	事例をとおして考える（地域共同と多職種協働）						
第4回	PDCAサイクルの考え方と実際の運用方法						
第5回	実践記録の方法						
第6回	福祉実践演習（障害者との関わり方の復習）						
第7回	福祉実践現場の理解と見学						
第8回	福祉実践活動						
第9回	福祉実践活動						
第10回	福祉実践活動						
第11回	福祉実践活動						
第12回	福祉実践活動						
第13回	福祉実践活動総括と振り返り						
第14回	福祉十背における評価とは						
第15回	全体の総括と試験						
【教科書・参考書】							
テキスト：「事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク」 川村隆彦著 中央法規出版。参考図書：「どうすれば福祉のプロになれるか カベを乗り越え活路を開く仕事術」 久田則夫著 中央法規出版。							
【学生へのメッセージ】							
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 地域福祉演習を習得済みで社会福祉援助技術論 ～ ・社会福祉援助技術演習 ～ を習得していることが望ましい。福祉現場での就職を志望している学生が積極的に受講してほしい。							
【オフィスアワー】							
池上要靖：火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。 高橋賢充：火曜日1限目と水曜日2限目							
【実務経験】							
池上要靖：保護司、宗教法人智寂坊代表役員、元教育委員 高橋賢充：社会福祉士							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[01682] ケアマネジメント論				
期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	檜木 博之		ナラキ ヒロユキ	naraki hiroyuki	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ケアマネジメントとは何か、ケアマネジャーの役割は何か、ケアプランをどう作成するか、について説明していきます。ケアプランを作成できるようになること、ケアカンファレンスを進行できるようになることを目指して、授業を展開していきます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
ケアマネジメントの変遷、ケアマネジメントの目的・過程を理解し、自らが実践できる能力を身につける。障がい者分野・高齢者分野で実践されているケアマネジメントを理解し、ケアプランの書き方を調べ実際に作成することができる。チームアプローチを促進させる方法を理解し、実践することができる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
リアクションペーパーを使用し、教員と学生の双方向の授業を展開していく。毎回の授業で提出するリアクションペーパーは、授業の理解度だけでなく、自らが考える力を身につけるために実施する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前課題（120分）～毎回の授業で出される課題を行う。 事後学習（120分）～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。					
【成績評価（方法・基準）】					
毎回の授業のリアクションペーパー、ケアプラン内容30%、小レポート 20%、定期試験 50%					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	ケアマネジメントとは				
第2回	ケアマネジメントの歴史（その1）				
第3回	ケアマネジメントの歴史（その2）				
第4回	ケアマネジメントの手法（チームアプローチ・ICF）				
第5回	ケアマネジメントのプロセス（その1）				
第6回	ケアマネジメントのプロセス（その2）				
第7回	ケアマネジメントのプロセス（その3）				
第8回	ケアマネジメントのプロセス（その4）				
第9回	ケアマネジメントのプロセス（その5）（ケアプラン作成）				
第10回	ケアマネジメントを担う機関・専門職				
第11回	介護保険制度とケアマネジメント（その1）				
第12回	介護保険制度とケアマネジメント（その2）				
第13回	障害者総合支援法とケアマネジメント				
第14回	ケアマネジメント演習				
第15回	全体の総括				
【教科書・参考書】					
なし。参考図書 「改訂 初めて学ぶケアマネジメントテキスト」 能本守康著 中法法規。					
【学生へのメッセージ】					
社会福祉援助技術論 ～ を習得していることが望ましい。ケアマネジメントが実践できるために、授業をとおして「考える力」を見につける意識を持ってほしい。					
【オフィスアワー】					
毎回の授業前後で教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
社会福祉士					

対象年度	学科・科目	分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[01683] 保育相談支援【平成30年度生まで】				
-----	---------------------------	--	--	--	--

期 間	後期（15回）	単 位 数	選択（1）	種 類	演習
-----	---------	-------	-------	-----	----

対象学年	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当者	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko
-----	-------	---------	---------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

保育相談の事例を用いながら、子育て支援の具体的な方法について概説をする。特に学生自身が、どのように考え、支援を実践するのかを重視する。また保護者との信頼関係の形成、地域資源の活用、苦情対応等についても説明をする。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

保育の専門家は、子どもの保育と同時に両親・保護者の育児支援が大きな仕事となる。この授業では、保育現場における相談の実態を知り、演習課題を基にして相談支援の実践に役立つ学修を目指す。この授業を受講することで、保育相談支援の意義と原則や、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実践について理解し、保護者とコミュニケーションをとるための基礎能力を養うことができる。また、受講生にとって、自己理解を深め、保育者としての自分自身のあり方を考える機会にもなる。

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書を読み進め、理論等の背景について理解したのち、相談支援の実践を理解するために、多くの事例に触れ、自分なりに考える。そのうえでディスカッションを行い、多様な考え方、とらえ方を知り、より理解を深めていく。可能な限り、シュミレーションしてロールプレイ等を行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

本授業では、それぞれ60分以上の事前・事後の学修を行うこと。課題は毎回課すものとする。事前学習では、教科書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学習では、毎回課題を課すため、学んだことを整理し、必ず課題を行ってこること。

【成績評価（方法・基準）】

授業内容確認テスト（50％）、授業への取り組み（30％）、課題への取り組み（20％）により総合的に評価する。

【授業計画（各回の授業内容）】

第1回	保育相談支援とは？ / 傾聴・共感を知る
第2回	保育相談支援の方法
第3回	保護者との関係づくり
第4回	保育の環境構成を生かした保護者支援
第5回	ワーク：連絡帳の返事を書いてみよう
第6回	地域の資源の活用と関係諸機関との連携
第7回	地域子育て支援における保育相談支援の実践
第8回	養育力向上を目指した支援
第9回	保護者同士の関係を支援する
第10回	苦情対応から始まる支援
第11回	障がいのある子どもの保護者支援
第12回	要保護児童の家庭に対する支援
第13回	乳児院等における支援
第14回	家族関係支援の考え方
第15回	まとめ 振り返りロールプレイ

【教科書・参考書】

教科書：『実践・保育相談支援』青木紀久代編（みらい）2015年、参考書：『保育者のためのカウンセリングマインド』佐川寛子・成瀬美恵子著（チャイルド本社）2007年、『保育相談支援』福丸由佳・安藤智子・無藤隆編（北大路書房）2011年、『保育園における苦情対応 対応困難事例とワーク』東京都社会福祉協議会保育部会調査研究委員会（東京都社会福祉協議会）2012年

【学生へのメッセージ】

相談支援活動の明確なイメージをもってもらうため、多くの事例を読み、考えてもらいます。その中で、話を「聴く」「聴いてもらう」とはどういうことなのか、様々な個性を持つ子ども達や家庭をどう理解するのかを学んでください。また、保育者が行う相談と、専門家が行う相談の共通点・相違点についても理解するようにしてください。これらのことは、保育、福祉、教育、医学など幅広い分野で役に立ちます。また、保育者としての「自分」のあり方について考えるとともに、自分自身の子育てにも役立つものですので、意欲的に学んでください。

【オフィスアワー】

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01731] インターンシップ				
期 間	通年（4回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	4年	
担当者	池上 要靖	イケガミ ヨウセイ		ikegami yosei	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就労体験を行い、自分の進路先及び適正等に対する理解を深め、自己の将来設計に対する具体的なビジョンを形成する。キーワード：インターンシップ、就労体験、将来設計					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
就労体験を通して将来の就職先を具体的にイメージできるようになることと、大学での学びにより培われた実践力を検証して、さらなるステップアップが図れるようになることを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと(3時間程度)。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏め、報告書を作成すること（5時間程度）。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしか遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>				
第2回	事前説明とマッチング（受け入れ先の理解、場合に寄っては事前面接を課す場合もある）				
第3回	インターンシップ活動（単一事業所の場合と複数事業所での活動をあらかじめ選択、それぞれの適正時間を認識しておくこと）90時間以上（2単位の場合）。				
第4回	事後の報告書作成と発表会				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
自分の将来を見据えて、なすべきことに対して、これまで培ったスキルがどのように役立つかを意識して事前学習を行い、実習に備えるようにしてください。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。					
【実務経験】					
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01734] インターンシップ				
期間	通年（4回）	単位数	選択（2）	種類	実習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	池上 要靖		イケガミ ヨウセイ	ikegami yosei	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就労体験を行い、自分の進路先及び適正等に対する理解を深め、自己の将来設計に対する具体的なビジョンを形成する。キーワード：インターンシップ、就労体験、将来設計					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
就労体験を通して将来の就職先を具体的にイメージできるようになることと、大学での学びにより培われた実践力を検証して、インターンシップの経験を踏まえて、自ら積極的な姿勢で就労することによって、さらなるステップアップが図れるようになることを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習として、インターンシップを希望する企業等の概要について調べておくこと(5時間程度)。事後学習として、インターンシップで得たことについて纏め、報告書を作成すること(10時間程度)。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしか遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>(1) 一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>(2) 身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>				
第2回	事前説明とマッチング（受け入れ先の理解、場合に寄っては事前面接を課す場合もある）				
第3回	インターンシップ活動（単一事業所の場合と複数事業所での活動をあらかじめ選択、それぞれの適正時間を認識しておくこと）90時間以上（2単位の場合）。				
第4回	事後の報告書作成と発表会。（1名15分程度）				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合って決めること。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。					
【実務経験】					
宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		キャリア系科目	
講義名	[01738] インターンシップ			
期間	通年（1回）	単位数	選択（2）	種類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	木村 中一	キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学修として、インターンシップで得たことについて纏めること。				
【成績評価（方法・基準）】				
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>			
【教科書・参考書】				
特になし。				
【学生へのメッセージ】				
インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合っ決めてください。				
【オフィスアワー】				
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）				
【実務経験】				
宗教法人法養寺代表役員				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[01741] インターンシップ				
期 間	通年（1回）	単 位 数	選 択（2）	種 類	実習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直す。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
将来の就職先について、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計2週間のインターンシップを行うことにより、2単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学修として、インターンシップで得たことについて纏めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ側の評価及び勤務態度等の記されている報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	<p>自分自身の進路において非常に価値のある体験です。冷やかしかや遊び半分で行うことの無いようにして下さい。文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、僧道を目指す場合も、久遠寺や仏具店におけるインターンシップは非常に価値ある体験と思われます。</p> <p>1、受講資格</p> <p>（1）一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理入門』『情報処理応用』を修得した学生。ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。</p> <p>（2）身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。</p>				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 インターンシップ内容やインターンシップ先については担当教員と話し合って決めること。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）					
【実務経験】					
宗教法人法養寺代表役員					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01750] キャリア教育						
期 間	前期（15回）		単位数	選択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
就職支援							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
自分の夢や人生の目標を持って豊かなキャリアを築くための基礎をつくること、学生と社会人の違いを考えつつ、社会人として必要な知識や心構えを習得することを主な課題として、4年生の春から本格的にスタートする就職活動に向けて一足早く準備を始めます。また、連絡を取り合う手段として頻繁に使用する電話対応のしかたを学びながら、社会で役立つ知識を習得していきます。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションなどを行います。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームなどを通して「感じる」「考える」時間を作っています。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日20分間自分自身について、将来について、考える時間を作ってください。							
【成績評価（方法・基準）】							
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	スキル開発その1 ビジネス電話						
第2回	スキル開発その2 ビジネス電話						
第3回	スキル開発その3 ビジネス電話						
第4回	スキル開発その4 ビジネス電話						
第5回	スキル開発その5 ビジネス電話						
第6回	スキル開発その6 ビジネス電話						
第7回	なりたい自分になる 夢の叶えかた						
第8回	コミュニケーションの基本その1						
第9回	コミュニケーションの基本その2						
第10回	マナーの基本1						
第11回	マナーの基本2						
第12回	社会人としての心構えその1						
第13回	社会人としての心構えその2						
第14回	知っておきたい法律・規則						
第15回	総括（小論文）						
【教科書・参考書】							
講義はプリントを配布します。							
【学生へのメッセージ】							
講義中は積極的に考え行動してください。また欠席・遅刻をしないよう心掛けてください。							
【オフィスアワー】							
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。							
【実務経験】							
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。							

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目			キャリア系科目
講義名	[01751] キャリア教育			
期 間	後期（15回）	単 位 数	選 択（1）	種 類 演習
対象学年	--	2 年	3 年	4 年
担当者	淡路 実春	アワジ ミハル		awaji miharu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
就職支援				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
全員が希望就職先で内定をもらうことを目的とします。就職面接試験は、あなたの人生を大きく左右するほどのとても大切な分岐点です。自己分析や企業研究のしかた、目的、効果を学ぶことで、あなたに合った就職先を見つけられるようになり、志望動機の書き方や自己アピールの作り方、履歴書の書き方などのコツを学ぶことで、自分の魅力をしっかり伝えられるようになり、また、面接やディスカッションのポイントやコツもお伝えしますので、面接で何を表現し、何を語ればよいのかが分かるようになります。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションを行います。実際に自己分析・企業研究をして、これに基づいた志望動機・自己アピールを考えて履歴書を作成します。講義の内容によっては、知識を得るだけではなく、簡単なゲームを通して「考える」「感じる」時間を作っています。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日10分間（1週間で70分）自分自身について、将来について考え、実際の就職活動に活かせるよう努めてください。				
【成績評価（方法・基準）】				
小論文試験（30%）、授業への取り組み姿勢（40%）、課題提出（30%）によって評価します。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	就職活動のプロセス			
第2回	自己分析その1			
第3回	自己分析その2			
第4回	企業研究とマッチング			
第5回	志望動機			
第6回	自己アピール			
第7回	履歴書の書き方			
第8回	お礼状の書き方			
第9回	面接の種類と対策			
第10回	第一印象の重要性と身だしなみ			
第11回	美しい姿勢とお辞儀/面接の流れを確認する			
第12回	正しく聴いて分かりやすく答える（理解する力・伝える力） 質疑応答			
第13回	ディスカッションその1			
第14回	ディスカッションその2			
第15回	総括（小論文）			
【教科書・参考書】				
毎講義時にプリントを配布します。				
【学生へのメッセージ】				
就職活動に必要な知識を得るために、欠席はしないよう心掛けてください。講義中は積極的に考え行動してください。				
【オフィスアワー】				
授業の前後、毎週教室にて受け付けます。				
【実務経験】				
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。				

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				キャリア系科目		
講義名	[01752] キャリア教育						
期 間	前期（15回）		単 位 数	選択（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	ジル・エマ・ストロースマン		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
一歩進んだ英語を使えるようになるための授業です。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
学生の希望を聞いて、それぞれのキャリアに役立つ英語の学習をします。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
ここ数年、少人数のため時間を決めて研究室で一对一の学習をしています。人数が多いとまた教室になります。TOEIC狙いの学生にはTOEICの教材を使って、英語で会話をする希望のある学生には会話学習の教材で対応してきました。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学習90分 ミニテストの単語を暗記して、次のレッスンの予習をする。 事後学習90分 プリントを読み直して、難しかったところを理解する。							
【成績評価（方法・基準）】							
この場合、評価は平常点と試験と宿題を基準に行います。目安として、平常点と試験は40%ずつで、課題などその他は20%です。受講前に用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	Pronunciation						
第2回	Greetings						
第3回	You and Your Family						
第4回	Everyday Life in Minobu						
第5回	Future Dreams						
第6回	High School Days						
第7回	中間テスト						
第8回	Reading Comprehension						
第9回	Telephoning						
第10回	Fixing an Appointment						
第11回	Complaints						
第12回	Requests and Offers						
第13回	Specific Career Terminology 1						
第14回	Specific Career Terminology 2						
第15回	まとめと前期試験						
【教科書・参考書】							
テキスト：最初の授業の際、一緒に選んであげます。参考書：英和和英辞典							
【学生へのメッセージ】							
高度な勉強ですし、発音などに関して厳しく指導しますので、しっかり話せるようになりたい方に受講していただきたいです。							
【オフィスアワー】							
月曜日 5時限							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01872] ゼミナール (田沼朗)				
期間	前期 (15回)	単位数	必修 (2)	種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ	tanuma akira	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生諸君が決めたテーマについて、文献や資料を自ら調べ、発表し、討論します。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】					
現代日本の教育改革について学ぶ。臨時教育審議会 (1984-1987年)以降、急速に教育制度の改革が進んでいる。その思想、子ども、教師、親への影響を総合的に学んでいきたい。現在進行中の教育改革原理を学び、主体的にテーマを決めて学習し、生きる力を身につけることを目標にする。具体的なテーマについては、学生諸君と相談して決めたい。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
文科省や財界の教育政策、それらに関する研究書、論文を読んでいく。学生諸君の関心を聴いてテーマを考えます。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修120分 あらかじめ指示されたテキスト、資料、参考文献を読んでおく。 事後学修120分 授業を振り返りながら課題をノートに整理する。					
【成績評価 (方法・基準)】					
学期末レポート50%、ゼミナールへの取り組み姿勢50%					
【授業計画 (各回の授業内容)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	テキスト購読				
第3回	テキスト購読				
第4回	テキスト購読				
第5回	テキスト購読				
第6回	テキスト購読				
第7回	ゲスト講師の講義				
第8回	テキスト購読				
第9回	テキスト購読				
第10回	テキスト購読				
第11回	テキスト購読				
第12回	テキスト購読				
第13回	テキスト購読				
第14回	テキスト購読				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
学生と相談の上、テーマを決めるので、テキスト、参考文献は後日指示する。					
【学生へのメッセージ】					
毎回、テキストや資料を読んでくること。					
【オフィスアワー】					
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。					
【実務経験】					
なし					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01886] ゼミナール (高橋賢充)						
期 間	前期 (15回)		単 位 数	必修 (2)		種 類	演習
対象学年	--	--	3年	4年			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会福祉学の範囲において、自分の興味関心をもつテーマについて明らかにし、主体的に研究を行うスキルを身につける。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
研究の方法について修得する。文献購読やフィールド・ワーク個人発表をとおして研究のプロセスについて理解する。既存の概念に囚われない自由な発想力を養う。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
卒業研究に向けての基本的スキルについて。研究の方法、文書作法などについて。文献講読。個人研究の準備。個人研究・グループによる検討。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
各自文献を通読しておく。							
【成績評価 (方法・基準)】							
発表50%、研究姿勢50% で評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	オリエンテーション						
第2回	文献講読と議論						
第3回	文献講読と議論						
第4回	文献講読と議論						
第5回	文献講読と議論						
第6回	文献講読と議論						
第7回	文献講読と議論						
第8回	文献講読と議論						
第9回	文献講読と議論						
第10回	文献講読と議論						
第11回	文献講読と議論						
第12回	文献講読と議論						
第13回	卒論テーマの検討						
第14回	卒論テーマの検討						
第15回	卒論テーマの検討						
【教科書・参考書】							
特に指定しない。参考文献：適宜紹介する							
【学生へのメッセージ】							
学生自らの主体的な学ぶ姿勢を求めます。人々の生活や社会の課題に対する問題意識を研究につなげてほしい。							
【オフィスアワー】							
火曜日1限目と水曜日2限目							
【実務経験】							
社会福祉協議会相談援助業務・社会福祉士							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01972] ゼミナール (田沼朗)						
期間	後期 (15回)		単位数	必修 (2)		種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年			
担当者	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
ゼミナール の続きです。そちらを参照してください。							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
ゼミナール を参照してください。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
参加学生が主体となって、文献や資料を読んで発表し、討論します。必要に応じて、担当教員が支援します。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
事前学修 指示された文献や資料をよく読んでおく (120分)。 事後学修 ゼミナールの後、発表や討論を振り返りながら、ノートを整理する (120分)。							
【成績評価 (方法・基準)】							
出席と発表を重視します (50%)、最終レポート (50%)							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	ガイダンス						
第2回	文献・資料の購読						
第3回	文献・資料の購読						
第4回	文献・資料の購読						
第5回	文献・資料の購読						
第6回	文献・資料の購読						
第7回	文献・資料の購読						
第8回	中間まとめ						
第9回	文献・資料の購読						
第10回	文献・資料の購読						
第11回	文献・資料の購読						
第12回	文献・資料の購読						
第13回	文献・資料の購読						
第14回	文献・資料の購読						
第15回	まとめ						
【教科書・参考書】							
授業中に適宜、紹介します。							
【学生へのメッセージ】							
文献・資料は必ず事前に読んでおくこと。日ごろから社会問題、教育問題に興味を持ってほしい。							
【オフィスアワー】							
月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。							
【実務経験】							
なし							

対象年度	学科・科目			分野	
令和2年度	福祉学専攻 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[01979] ゼミナール (伊東久実)				
期間	後期 (15回)	単位数	必修 (2)		種類 演習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
各自のテーマに基づき、現場での観察研究をどう進めていくが具体的に学びます。また、プレゼンテーションの方法についても発表の機会を持ちながら、実践的に学んでいきます。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】					
ゼミナールをとおして卒論準備のための文献を読みこなす力と、レポートにまとめる文章力をつけることができます。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
観察計画と記録、分析等と、文献研究を同時進行で進めていきます。担当を決めて定期的に発表します。また、各自の課題に応じて地域の施設を利用し実地での学修を行います。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、授業終了時に明確になった各自の課題を内容を調べる。事後の学習では、専門用語の復習を行うと共に、関連の資料を利用して授業で扱った内容理解を深めること。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業への取り組み (70%)、レポート (30%) により総合的に評価します。					
【授業計画 (各回の授業内容)】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	観察研究と参考文献の読み合わせ及びレポート発表 その1				
第3回	観察研究と参考文献の読み合わせ及びレポート発表 その2				
第4回	観察研究と参考文献の読み合わせ及びレポート発表 その3				
第5回	観察研究と参考文献の読み合わせ及びレポート発表 その4				
第6回	観察研究と参考文献の読み合わせ及びレポート発表 その5				
第7回	保育現場の観察 その1				
第8回	フィードバック				
第9回	観察研究の方法と参考文献の読み合わせ及びレポート発表 その1				
第10回	観察研究の方法と参考文献の読み合わせ及びレポート発表 その2				
第11回	観察研究の方法と参考文献の読み合わせ及びレポート発表 その3				
第12回	観察研究の方法と参考文献の読み合わせ及びレポート発表 その4				
第13回	観察研究の方法と参考文献の読み合わせ及びレポート発表 その5				
第14回	保育現場の観察 その2				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
授業時に随時指示します。					
【学生へのメッセージ】					
ゼミ員各自の関心を共有し、相互に触発し合いながら多くのことを学んでいくと同時に、各自の問題意識を明確化して4年次に臨んでほしい。					
【オフィスアワー】					
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)					
【実務経験】					
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭。保育に関する様々な課題を実践に即しつつ考える授業を行います。					

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 専門科目				ゼミナール・卒業論文		
講義名	[01986] ゼミナール (高橋賢充)						
期間	後期 (15回)		単位数	必修 (2)		種類	演習
対象学年	--	--	3年	4年			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
社会福祉学の範囲において、自分の興味関心をもつテーマについて明らかにし、主体的に研究を行うスキルを身につける							
【授業修了時の達成課題 (到達目標)】							
研究の方法について修得する。文献購読やフィールド・ワーク個人発表をとおして研究のプロセスについて理解する。既存の概念に囚われない自由な発想力を養う。							
【授業方法 (フィードバックの内容)】							
卒業研究に向けての基本的スキルについて。研究の方法、文書作法などについて。文献講読。個人研究の準備。個人研究・グループによる検討。							
【授業外学修の方法 (時間数)】							
各自文献を通読しておく。							
【成績評価 (方法・基準)】							
発表 50%、研究姿勢 50% で評価する。							
【授業計画 (各回の授業内容)】							
第1回	文献講読と議論						
第2回	文献講読と議論						
第3回	文献講読と議論						
第4回	文献講読と議論						
第5回	文献講読と議論						
第6回	文献講読と議論						
第7回	文献講読と議論						
第8回	文献講読と議論						
第9回	卒論テーマの検討						
第10回	卒論テーマの検討						
第11回	卒論テーマの検討						
第12回	卒論テーマの検討						
第13回	卒論の書き方						
第14回	卒論の書き方						
第15回	卒論の書き方						
【教科書・参考書】							
特に指定しない。参考文献：適宜紹介する。							
【学生へのメッセージ】							
学生自らの主体的な学ぶ姿勢を求めます。人々の生活や社会の課題に対する問題意識を研究につなげてほしい。							
【オフィスアワー】							
火曜日 1 限目と水曜日 2 限目							
【実務経験】							
社会福祉協議会相談援助業務・社会福祉士							

対象年度	学科・科目			分野
令和2年度	福祉学専攻 専門科目			ゼミナール・卒業論文
講義名	[02087] 卒業論文（高橋賢充）			
期 間	通年（30回）	単 位 数	必修（4）	種 類 演習
対象学年	--	--	--	4年
担当者	高橋 賢充	タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
卒業論文の作成。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
自らの研究テーマに沿い主体性をもって卒業論文を完成させる。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
各自研究テーマに応じて発表、議論を重ねる。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
自らの研究テーマに応じ、卒業論文作成に向けて文献・資料の収集・調査等を行う。				
【成績評価（方法・基準）】				
研究の進捗状況、授業に臨む姿勢、主体的な学びの態度を加味し、卒業論文の内容によって評価する。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第2回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第3回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第4回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第5回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第6回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第7回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第8回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第9回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第10回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第11回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第12回	各自の研究テーマに沿った発表と議論			
第13回	中間報告にむけての準備・指導			
第14回	中間報告にむけての準備・指導			
第15回	中間報告にむけての準備・指導			
第16回	中間発表にむけての準備			
第17回	中間発表にむけての準備			
第18回	中間発表にむけての準備			
第19回	卒業論文提出にむけての指導			
第20回	卒業論文提出にむけての指導			
第21回	卒業論文提出にむけての指導			
第22回	卒業論文提出にむけての指導			
第23回	卒業論文提出にむけての指導			
第24回	卒業論文提出にむけての指導			
第25回	卒業論文提出にむけての指導			
第26回	口頭試問・卒業論文発表会に向けての指導			
第27回	口頭試問・卒業論文発表会に向けての指導			
第28回	口頭試問・卒業論文発表会に向けての指導			
第29回	口頭試問・卒業論文発表会に向けての指導			
第30回	口頭試問・卒業論文発表会に向けての指導			
【教科書・参考書】				
指定しない。適宜参考資料等を提示する。				

【学生へのメッセージ】

卒業論文は学生自らの学びとなるものですが、特に社会福祉分野の論文については、人々の生活課題や社会の課題の解決に向けられるものであることを視点に作成してほしい。

【オフィスアワー】

火曜日 1 限目と水曜日 2 限目

【実務経験】

社会福祉協議会相談援助専門職・社会福祉士

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目				社会福祉士国家試験受験資格取得課程		
講義名	[05334] 社会福祉援助技術現場実習指導						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
小グループによる実習事前指導及び事後指導を行う。また、実習中は週1回の巡回指導を行う。総括として、実習報告書を作成するとともに、実習報告会で報告し質疑応答を行う。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
相談援助実習の意義について理解する。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
テキストを中心に講義・演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。							
【成績評価（方法・基準）】							
出席8割以上で成績評価を可能とする。 レポート50% リアクションペーパー・面接技術評価・アセスメント50%の配分で評価を行う。							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	実習報告書の作成						
第2回	実習報告会						
第3回	実習後の振り返り（グループワーク）						
第4回	実習後スーパービジョン						
第5回	実習後スーパービジョン						
第6回	実習施設研究						
第7回	実習施設研究発表会						
第8回	実習計画書の意義						
第9回	実習計画書の作成						
第10回	相談援助の実際						
第11回	相談援助の実際						
第12回	実習記録の書き方						
第13回	実習記録の書き方						
第14回	実習直前ガイダンス						
第15回	全体総括						
【教科書・参考書】							
『社会福祉士 相談援助実習（第2版）』監修一般社団法人日本社会福祉士養成校協会 中央法規出版 2015年							
【学生へのメッセージ】							
欠席回数がそれぞれ累計3回を超える場合、配属済みでも実習は中止となる。また、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入った者（口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。さらに日頃から出来る限りボランティア活動に参加するよう心掛けること。5月連休中にはフィールドワーク（市町村の制度やサービス調査や福祉計画の分析など）を課す予定である。本科目のみを履修するとはできず、「相談援助実習」が不可の場合、本科目も不可となる。							
【オフィスアワー】							
火曜日 1 限目と水曜日 2 限目							
【実務経験】							
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務							

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目				社会福祉士国家試験受験資格取得課程		
講義名	[05335] 社会福祉援助技術現場実習						
期 間	前期（1回）		単 位 数	必修（1）		種 類	実習
対象学年	--	2年	3年	4年			
担当者	高橋 賢充		タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
実際に福祉現場を体験し、社会福祉士に必要な倫理・知識・技術を身につけるとともに、実践力のある対人援助専門職を目指して自己を振り返り、資質や専門性を磨く。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
相談援助実習のねらい。相談援助実習を通して、相談援助に関わる知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
実習の目的を理解した上で、実習目標に沿った実習を行う。を立てる。実習中は毎日実習日誌を記入し、実習施設に提出する。実習終了後は、実習報告書、自己評価表を作成し、その後実習スーパービジョンを行う。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学習～実習機関に応じた事前課題をまとめておく（120分～）。事後学習～実習報告書をまとめる（120分～）。							
【成績評価（方法・基準）】							
自己評価・実習記録・実習指導者評価と実習後スーパービジョン・実習報告を総合して評価を行う							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	社会福祉援助技術について実際の社会福祉現場において実習を行う。						
【教科書・参考書】							
『社会福祉士 相談援助実習（第2版）』 監修一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（中央法規出版）2015年							
【学生へのメッセージ】							
実習～の実習時間（180時間以上）は全て実施しなければ履修したことにはならない。実習先での遅刻や欠席は認められない。また、真にやむを得ない事由であっても、実習時間が不足する場合は、後日その埋め合わせが必要になることもあるので、十分注意すること。本科目のみを履修することはできず、「相談援助実習指導」が不可となった場合、本科目も不可となる。。							
【オフィスアワー】							
火曜日 1限目と水曜日 2限目							
【実務経験】							
福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務							

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		社会福祉士国家試験受験資格取得課程	
講義名	[05373] 社会福祉援助技術現場実習			
期 間	後期（1回）	単 位 数	必修（3）	種 類 実習
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	高橋 賢充	タカハシ マサミツ		takahashi masamitsu
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
実際に福祉現場を体験し、社会福祉士に必要な倫理・知識・技術を身につけるとともに、実践力のある対人援助専門職を目指して自己を振り返り、資質や専門性を磨く。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
相談援助実習のねらい 相談援助実習を通して、相談援助に関わる知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
実習の目的を理解した上で、実習目標に沿った実習を行う。を立てる。実習中は毎日実習日誌を記入し、実習施設に提出する。実習終了後は、実習報告書、自己評価表を作成し、その後実習スーパービジョンを行う。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学習～実習機関に応じた事前課題をまとめておく（120分～）。事後学習～実習報告書をまとめる（120分～）。				
【成績評価（方法・基準）】				
自己評価・実習記録・実習指導者評価と実習後スーパービジョン・実習報告を総合して評価を行う。				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	社会福祉援助について実際の社会福祉現場において実習を行う			
【教科書・参考書】				
『社会福祉士 相談援助実習（第2版）』 監修一般社団法人日本社会福祉士養成校協会（中央法規出版）2015年				
【学生へのメッセージ】				
実習 ～ の実習時間（180時間以上）は全て実施しなければ履修したことはない。実習先での遅刻や欠席は認められない。また、真にやむを得ない事由であっても、実習時間が不足する場合は、後日その埋め合わせが必要になることもあるので、十分注意すること。本科目のみを履修することはできず、「相談援助実習指導」が不可となった場合、本科目も不可となる。				
【オフィスアワー】				
火曜日1限目と水曜日2限目				
【実務経験】				
社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務				

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		介護福祉士国家試験受験資格取得課程		
講義名	[05475] 介護実習 【平成30年度生まで】				
期 間	後期（1回）	単 位 数	必修（4）	種 類	実習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	佐々木 さち子		ササキ サチコ	sasaki sachiko	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
介護実習 は介護計画、介護内容、介護評価まで行う。実習の中で利用者の身体状況を見極める能力を学び、実践力となる実習を実習していく。指定介護老人福祉施設、介護老人保健施設、身体障害者療護施設、指定訪問介護事業所等で実習を行なう。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
（1）地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。（2）本人の望む生活の実現に向けて、他職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
デイ・サービスでの実習を通して 1 在宅福祉制度の概要を理解する 2 利用者の家庭における状況を理解する 3 利用者 と積極的にコミュニケーションを図り信頼関係をつくる 4 利用者 に適した介護の方法を選択し、適切な介護を実践する 5 利用者の状況、介護や利用している福祉サービスの状況を把握する 6 医療との関係について知る 7 介護職員間及び他職種間の連携を理解する 8 自己の介護観について明らかにする 9 介護者としての課題を明らかにする 10 実習成果をまとめる。					
【授業外学習の方法（時間数）】					
事前学習120分：実習に必要な知識、技術を学ぶ。介護実習総合演習 ・ で渡した事例の課題を見つける。事後学習120分：実習で学んだ必要な知識、技術を復習する。介護実習総合演習 ・ で渡した事例の介護計画を考えてくる。					
【成績評価（方法・基準）】					
施設側の評価と合わせて事前指導・巡回指導・事後指導等の各評価との関連から総合評価を行う。実習前に授業・前日の実習内容を必ず復習すること、実習後は内容の習得が得られるよう反復すること					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	第3段階 (施設介護実習 3年次 夏休み 8月から9月まで12日間(2週間)) (施設介護実習 4年次 夏休み 8月から9月まで12日間(2週間)) 施設運営のプログラムに参加し、サービス全般について理解させると同時に個別の介護過程の展開、記録の方法について学習し、チームの一員として介護を遂行できるような現任準備教育を行う。指導者の指導方針は、第2段階に準ずるが、状況によって、夜勤プログラムの導入ができればより望ましい。				
【教科書・参考書】					
介護実習の手引き。印刷にて配布。					
【学生へのメッセージ】					
実習 は3年生の夏休みに12日間（デイサービス実習5日間、施設実習7日間）4年生の夏休みに12日間の施設実習を行う。それぞれ介護過程の展開を行うので、速やかに介護計画が立てられるようにしていく。					
【オフィスアワー】					
出向日 火曜日、金曜日10時～17時、授業以外は406研究室にいる。実習巡回時約1時間の指導を行う。					
【実務経験】					
鉄道病院（現在JR東京総合病院）佐藤病院、訪問看護、約20年以上の経験を活かし、医療的ケアや介護の医学的知識を伝える授業を行う					

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		介護福祉士国家試験受験資格取得課程		
講義名	[05476] 医療的ケア 【平成31年度生まで】 法定科目				
期 間	前期（17回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	佐々木 さち子		ササキ サチコ		sasaki sachiko
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
医療的ケアが必要な人の安全で安楽の生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。医療的ケアに必要な「人間と社会」「保険医療制度」「チーム医療」「安全な療養生活」「清潔保持と感染予防」「健康状態の維持」「高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論」を学ぶ。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
「医療的ケア」「医療的ケア」「医療的ケア演習」「医療的ケア実習」を通して介護福祉士に必要な医療的ケアの概論を学ぶ。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
医療的ケアに必要な「人間と社会」「保健医療制度」「チーム医療」「安全な療養生活」「清潔保持と感染予防」「健康状態の把握」など、医療的ケアを安全・適切に実施する上で基礎的な内容を教授する。 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）では、喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得するよう教授する。 経管栄養（基礎的知識・実施手順）では、経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得するよう教授する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習 120分 テキストをあらかじめ読んでおくこと。事後学習 120分 テキストを読み直し、ノートをまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力評価テスト（90%） レポート（10%）					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	人間と社会（個人の尊厳と自立・医療の倫理・利用者や家族の気持ちの理解）				
第2回	人間と社会（個人の尊厳と自立・医療の倫理・利用者や家族の気持ちの理解）				
第3回	保健医療制度とチーム医療（保健医療に関する制度）				
第4回	保健医療制度とチーム医療（医療行為に関する法律・チーム医療と介護職員との連携）				
第5回	安全な療養生活（たんの吸引や経管栄養の安全な実施）				
第6回	安全な療養生活（たんの吸引や経管栄養の安全な実施・救急蘇生法）				
第7回	安全な療養生活（救急蘇生法）清潔保持と感染予防（感染予防、職員の感染予防）				
第8回	清潔保持と感染予防（感染予防、職員の感染予防）清潔保持と感染予防（療養環境の清潔、消毒法・滅菌と消毒）				
第9回	清潔保持と感染予防（療養環境の清潔、消毒法・滅菌と消毒）				
第10回	健康状態の把握（身体・精神の健康・急変状態について）健康状態の把握（健康状態を知る項目（バイタルサインなど））				
第11回	高健康状態の把握（健康状態を知る項目（バイタルサインなど））				
第12回	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論（消化器系のしくみとはたらき）				
第13回	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論（消化・吸収とよくある消化器の症状・経管栄養法とは）				
第14回	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論（注入する内容に関する知識・経管栄養実施上の留意点）				
第15回	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論（子どもの経管栄養について・経管栄養に係る感染と予防）				
第16回	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論（経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意・経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認・急変・事故発生時の対応と事前対策）				
第17回	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論（経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意・経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認・急変・事故発生時の対応と事前対策）				
【教科書・参考書】					
テキスト；最新・介護福祉士養成講座 別巻「医療的ケア」中央法規					
【学生へのメッセージ】					
介護福祉士として「医療的ケア」を行うことは、医療チームの一員になる事なのです。責任を持って医療的ケアを安全かつ適切に実施できるように、必要な知識・技術を習得してほしい。					

【オフィスアワー】

出向日 火曜日、金曜日10時～17時 授業以外は406研究室（4階）にいる。

【実務経験】

鉄道病院（現在JR東京総合病院）佐藤病院、訪問看護、約20年以上の経験を活かし、医療的ケアや介護の医学的知識を伝える授業を行う

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		介護福祉士国家試験受験資格取得課程		
講義名	[05477] 医療的ケア 【平成31年度生まで】 法定科目				
期 間	前期（17回）	単 位 数	必修（2）	種 類	講義
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	佐々木 さち子		ササキ サチコ		sasaki sachiko
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
医療的ケアが必要な人の安全で安楽の生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。「高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説」「高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論」「高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説」を学ぶ。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
「医療的ケア」「経管栄養」「経管栄養演習」「医療的ケア実習」を通して介護福祉士に必要な医療的ケアの概論を学ぶ。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
医療的ケアに必要な「人間と社会」「保健医療制度」「チーム医療」「安全な療養生活」「清潔保持と感染予防」「健康状態の把握」など、医療的ケアを安全・適切に実施する上で基礎的な内容を教授する。 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）では、喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得するよう教授する。 経管栄養（基礎的知識・実施手順）では、経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得するよう教授する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習120分：テキストをあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分：テキストを読み直し、ノートをまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力評価テスト（90%） レポート（10%）					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説（経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持・経管栄養の技術と留意点）				
第2回	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説（経管栄養の技術と留意点）				
第3回	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説（経管栄養の技術と留意点）				
第4回	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説（経管栄養に必要なケア・報告及び記録）				
第5回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論（呼吸のしくみとはたらき）				
第6回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論（いつもと違う呼吸状態・たんの吸引とは）				
第7回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論（人工呼吸器と吸引）				
第8回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論（子どもの吸引について）				
第9回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論（吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意・呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して））				
第10回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論（たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認・急変・事故発生時の対応と事前対策）				
第11回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論（急変・事故発生時の対応と事前対策）				
第12回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論（急変・事故発生時の対応と事前対策）				
第13回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説（たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持）				
第14回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説（吸引の技術と留意点）				
第15回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説（吸引の技術と留意点）				
第16回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説（たんの吸引に伴うケア・報告及び記録）				
第17回	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説（たんの吸引に伴うケア・報告及び記録）				
【教科書・参考書】					
テキスト：新・介護福祉士養成講座 別巻「医療的ケア」中央法規					
【学生へのメッセージ】					
介護福祉士として「医療的ケア」を行うことは、医療チームの一員になる事なのです。責任を持って医療的ケアを安全かつ適切に実施できるように、必要な知識・技術を習得してほしい。					

【オフィスアワー】

出向日 火曜日、金曜日10時～17時 授業以外は406研究室（4階）にいる。

【実務経験】

鉄道病院（現在JR東京総合病院）佐藤病院、訪問看護、約20年以上の経験を活かし、医療的ケアや介護の医学的知識を伝える授業を行う。

対象年度	学科・科目				分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目				介護福祉士国家試験受験資格取得課程		
講義名	[05478] 医療的ケア演習【平成31年度生まで】 法定科目						
期 間	後期（15回）		単 位 数	必修（1）		種 類	演習
対象学年	--	--	3年	4年			
担当者	佐々木 さち子		ササキ サチコ		sasaki sachiko		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
医療的ケアが必要な人の安全で安楽の生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。喀痰吸引：口腔気管カニューレ内部」「経管栄養：胃ろう・腸ろう」「経管栄養：経鼻経管栄養」「喀痰吸引：口腔・鼻腔」「救急蘇生法演習」方法を学ぶ。							
【授業修了時の達成課題（到達目標）】							
「医療的ケア」「医療的ケア」「医療的ケア演習」「医療的ケア実習」を通して介護福祉士に必要な医療的ケアの概論を学ぶ。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）では、喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得するよう教授する。経管栄養（基礎的知識・実施手順）では、経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得するよう教授する。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
前学習 120分 基本研修試験に必要な技術を学んでおく。事後学習 120分 実地研修（卒業後）に向け学習しておく。							
【成績評価（方法・基準）】							
学力評価テスト（80%）レポート課題（20%）							
【授業計画（各回の授業内容）】							
第1回	喀痰吸引；口腔（2回）						
第2回	喀痰吸引；鼻腔（2回）						
第3回	喀痰吸引；気管カニューレ内部（2回）						
第4回	経管栄養；胃ろう（2回）						
第5回	経管栄養；腸ろう（2回）						
第6回	経管栄養；経鼻経管栄養（2回）						
第7回	救急蘇生法演習（1回）						
第8回	喀痰吸引；口腔（3回）						
第9回	喀痰吸引；鼻腔（3回）						
第10回	喀痰吸引；気管カニューレ内部（3回）						
第11回	経管栄養；胃ろう（3回）						
第12回	経管栄養；腸ろう（3回）						
第13回	経管栄養；経鼻経管栄養（3回）						
第14回	救急蘇生法演習（2回）						
第15回	総合評価						
【教科書・参考書】							
テキスト：最新・介護福祉士養成講座 「医療的ケア」中央法規							
【学生へのメッセージ】							
介護福祉士として「医療的ケア」を行うことは、医療チームの一員になる事なのです。責任を持って医療的ケアを安全かつ適切に実施できるように、必要な知識・技術を習得してほしい。							
【オフィスアワー】							
出向日 火曜日、金曜日10時～17時 授業以外は406研究室（4階）にいる。							
【実務経験】							
鉄道病院（現在JR東京総合病院）佐藤病院、訪問看護、約20年以上の経験を活かし、医療的ケアや介護の医学的知識を伝える授業を行う。							

対象年度	学科・科目		分野		
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		介護福祉士国家試験受験資格取得課程		
講義名	[05479] 医療的ケア実習【平成31年度生まで】				
期 間	前期（5回）	単 位 数	必修（1）	種 類	実習
対象学年	--	--	3年	4年	
担当者	佐々木 さち子		ササキ サチコ	sasaki sachiko	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
医療的ケアが必要な人の安全で安楽の生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。喀痰吸引：口腔気管カニューレ内部」「経管栄養：胃ろう・腸ろう」「経管栄養：経鼻経管栄養」「喀痰吸引：口腔・鼻腔」「救急蘇生法演習」方法を学ぶ。喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）、経管栄養（胃瘻・経鼻）の基本研修（それぞれ5回をクリアーする）を行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標）】					
「医療的ケア」「医療的ケア」「医療的ケア演習」「医療的ケア実習」を通して介護福祉士に必要な医療的ケアの概論を学ぶ。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
医療的ケアに必要な「人間と社会」「保健医療制度」「チーム医療」「安全な療養生活」「清潔保持と感染予防」「健康状態の把握」など、医療的ケアを安全・適切に実施する上で基礎的な内容を教授する。喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）では、喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得するよう教授する。経管栄養（基礎的知識・実施手順）では、経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得するよう教授する。					
【授業外学習の方法（時間数）】					
事前学習 120分 基本研修試験に必要な技術を学んでおく。事後学習 120分 実地研修（卒業後）に向け学習しておく。					
【成績評価（方法・基準）】					
介護実習時、介護実習日誌にて評価を行う。 学力評価テスト基本研修（技術試験）合格することで（100%）					
【授業計画（各回の授業内容）】					
第1回	介護実習	喀痰吸引、経管栄養の見学			
第2回	介護実習	喀痰吸引、経管栄養の見学			
第3回	介護実習	（訪問介護実習） 喀痰吸引、経管栄養の見学			
第4回	介護実習	喀痰吸引、経管栄養の見学			
第5回	介護実習	喀痰吸引、経管栄養の見学			
【教科書・参考書】					
テキスト；最新・介護福祉士養成講座 「医療的ケア」中央法規					
【学生へのメッセージ】					
介護福祉士として「医療的ケア」を行うことは、医療チームの一員になる事なのです。責任を持って医療的ケアを安全かつ適切に実施できるように、必要な知識・技術を習得してほしい。					
【オフィスアワー】					
出向日 火曜日、金曜日10時～17時 授業以外は406研究室（4階）にいる。					
【実務経験】					
鉄道病院（現在JR東京総合病院）佐藤病院、訪問看護、約20年以上の経験を活かし、医療的ケアや介護の医学的知識を伝える授業を行う。					

対象年度	学科・科目		分野	
令和2年度	福祉学専攻 資格取得科目		保育士資格取得課程	
講義名	[05581] 保育実習指導			
期 間	通年（15回）	単 位 数	選 択（1）	種 類
対象学年	--	--	3年	4年
担当者	伊東 久実		イトウ クミ	ito kumi
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
保育士の資格を取得するための必修科目である。保育実習指導 では、保育実習 ・ ・ の学びをもとに保育所での実習を積極的に、かつ有益なものにするための実習指導を行う。指導案を立案し、模擬部分実習や模擬責任実習を行う。				
【授業修了時の達成課題（到達目標）】				
事前指導においては、保育所実習 の意義・目的を理解するとともに、実習を円滑に進めていくための知識、技術を習得し、実習内容と自らの課題を明確にする。また、指導計画の立案のための方法を学ぶ。事後指導においては、実習の総括・自己評価を行い、新たな学習目標を明確にする。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
保育実習 ・ の学びを基に、実習 に必要な知識、技術、指導計画の立案の方法を学ぶために、テキストの他これまでの実習記録や実際に書かれた保育計画等を活用して学ぶ。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
この授業では、毎回60分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。				
【成績評価（方法・基準）】				
評価：単に実習の準備を行うことに留まらず、保育や養護の実践面の理解もねらいとするため、それら双方の観点から受講状況、レポートなど総合して評価する。(受講状況 70%、レポート30%)				
【授業計画（各回の授業内容）】				
第1回	保育所実習 の目的と内容・について			
第2回	保育所実習 の方法について			
第3回	保育所実習 の自己評価と保育所実習 の課題の明確化			
第4回	保育所実習 の実習目標をたてる			
第5回	部分・責任実習の指導案の立案			
第6回	部分・責任実習の指導案の立案			
第7回	指導案の検証			
第8回	指導案の検証			
第9回	保育所実習 へ向けての諸書類の作成			
第10回	日誌記録についての個別指導			
第11回	実習前の心構えと諸注意について			
第12回	実習の振り返りと自己評価			
第13回	反省会			
第14回	日誌記録についての個別指導			
第15回	「評価票」による個別面接指導			
【教科書・参考書】				
『保育実習』第2版 阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編 ミネルヴァ書房 2014、『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』相馬和子・中田カヨ子編 萌文書林 2004年、『保育所保育指針』厚労省				
【学生へのメッセージ】				
学内での指導及び掲示内容について十分理解し、書類等の提出期限を厳守すること。 積極的に自分自身の実習計画をたてるよう、実習事前学習を活用して欲しい。実習事後学習においては実践から得た学びを確実に整理し、その後の授業に生かして欲しい。				
【オフィスアワー】				
火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください)				
【実務経験】				
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭。保育者経験を生かして、部分実習の立案や模擬実習を行います。				